和歌山県の農林水産業



平成20年4月

和歌山県農林水産部

和歌山県の市町村



凡例	内　　容	市町村別
	振興山村地域	17
	過疎地域町村	13
	農振法対象外地域	2
	特定農山村地域	25

平成20年4月1日現在

※特定農山村地域のうち、
海南市（旧下津町）、御坊市（旧名田村）、白浜町（旧北富田村、旧東富田村、旧日置川町）は一部指定

目　　次

利用にあたって…… 1

Ⅰ　和歌山県の農林水産業の特徴…… 3

1　和歌山県農林水産業の主要指標…… 3

2　和歌山県の農業の特徴

1）農業産出額の構成…… 4

2）耕地面積当たりと農家一戸当たりの生産農業所得…… 4

3）本県基幹作物の全国シェア…… 5

3　和歌山県の林業の特徴

1）森林資源…… 6

2）民有林の森林資源の概況…… 6

3）林家の構成…… 6

4　和歌山県の水産業の特徴

本県の主な漁業生産の全国シェア…… 7

Ⅱ　和歌山県の農林水産業の動向…… 8

1　農業部門

1）農業指標…… 8

2）農業を担う人々…… 9

3）耕地面積……10

4）農業生産……12

5）農業所得と農業産出額……27

6）農業農村整備事業の基盤整備状況……30

2　林業部門

1）林業を担う経営体（林業経営体）……31

2）森林資源・林業生産基盤……32

3）林業生産……34

4）林業所得と林業産出額……38

3　水産部門

1）水産業を担う人々……39

2）水産業の基盤……40

3）水産業の生産……41

4）主な漁種別漁獲量・生産額の推移……42

Ⅲ　農林水産関係施策を行っている主な課室……43

利用にあたって

Ⅰ）本資料は、公表されている最新の数値を基本に、和歌山県の農林水産業の概要を示したものです。

Ⅱ）公表されている数値の最新年次が全国と和歌山県で異なるなどのため、囲み掲載している「本県農林水産業の全国における位置」等、数値と本編の数値が一致しないものもあります。

Ⅲ）数値等の出典は図の下に（　）書きで示しています。

ただし、「本県農林水産業の全国における位置」は農林水産省統計表に基づいています。また、単位未満の数値は四捨五入、あるいは下記のとおりラウンドを行っている調査もあるため、内容の計は必ずしも合計と一致しません。

桁　数		7 桁 以 上	6 ～ 5 桁	4　桁	3 桁 以 下
ラ ウ ン ド 方 法		下 3 桁	下 2 桁	下 1 桁	ラウンドしない
例	ラウンド前	1,234,567	123,456	1,234	123
	ラウンド後	1,235,000	123,500	1,230	123

Ⅳ）本資料で使われている主な統計用語は、次のとおりです。

（1）農家とは……経営耕地面積が10アール以上であるか又は過去1年間の農産物販売金額が15万円以上あるかのどちらかの要件を満たしている世帯。

（2）販売農家とは……経営耕地面積30アール以上又は農産物販売金額50万円以上の農家。

単一経営農家　農産物の１位部門の販売金額が全体の80%以上を占める農家

複合経営農家　単一経営以外の農家で１位部門の販売金額が農産物総販売額の60%未満の農家

準単一複合経営農家　複合経営のうち１位部門の販売金額が農産物総販売額の60%以上80%未満の農家

（3）自給的農家とは……経営耕地面積30アール未満でかつ農産物販売金額50万円未満の農家。

利用にあたって

（４）基幹的農業従事者とは…自家農業に主として従事した世帯員のうち、普段農業に従事することを主としている者。

（５）農業専従者とは……自家農業に従事している者であり、自家農業に従事した日数が150日以上の者。

（６）農家所得＝農業所得（農業粗収益から農業経営費を差し引いたもの）＋農外所得（農外収入から農外収入をあげるために要した費用を差し引いたもの）。

（７）生産農業所得＝農業総産出額×所得率＋農業生産に関わる経常補助金

（８）農業産出額とは……農業生産活動による最終生産物の総生産額であり、市町村別の農産物別生産数量に市町村別農産物別農家庭先価格を乗じて算出したもの。市町村を推計単位としている。

（９）林業経営体とは……次のいずれかに該当する事業を行う者。

①権原に基づいて育林又は伐採を行うことができる山林の面積が3ha以上の林業。

②委託を受けて行う育林若しくは素材生産又は立木を購入して行う素材生産の事業。

(10) 林業就業者とは……15歳以上で特定の1週間の間に林業に従事した者。

(11) 上記のうち主として林業に就業している者とは……主に勤務や自営により林業の仕事をしていた場合。

(12) 生産林業所得＝林業粗生産額×所得率

(13) 漁業世帯とは……漁業への参加形態によって、個人漁業経営体及び漁業従事者世帯に大別されます。

個人漁業経営体……年間30日以上個人経営で海面漁業を営んだ漁業経営体。

漁業従事者世帯……漁業経営体に雇われて、又は共同経営に出資従事して年間30日以上海面漁業の海上作業に従事した世帯員のいる世帯。

(14) 漁業就業者とは……漁業世帯の世帯員のうち、満15歳以上で過去1年間に海上作業に30日以上従事した者。

(15) 漁業生産額とは……年内に生産された水産物の総量に産地卸売価格を乗じて算出したもの。

Ⅰ　和歌山県の農林水産業の特徴

1　和歌山県農林水産業の主要指標

	農業			林業			水産業		
担う人々	農家 平17.2.1	戸 36,531	% 100.0	林家 平17	戸 11,935		漁業世帯 平15	戸 4,054	
	販売農家 平17.2.1	25,594	70.1	林業経営体 平17	経営体 3,128		個人漁業経営体 平18	2,733	
	自給農家 平17.2.1	10,937	29.9				漁業従事者世帯 平15	1,143	
	専業農家 平17.2.1	9,250	25.3						
	一種兼業 平17.2.1	5,408	14.8						
	二種兼業 平17.2.1	10,936	29.9						
	基幹的農業従事者 平17.2.1	人 38,591		林業就業者 平17	人 1,021		漁業就業者 平15	人 4,668	
	農業専従者（販売農家） 平17.2.1	31,652		うち主として林業に就業していた者	830		自営漁業就業者 平15	3,300	
基盤	耕地 平18	ha 36,800	% 100.0	森林面積 平19.4.1	ha 363,583		漁船 平19	隻 5,996	% 100.0
	水田 平18	11,400	31.0	民有林 平19.4.1	346,035	% 95.2	ジーゼル 平19	4,252	70.9
	樹園地 平18	22,800	62.0	人工林 平19.4.1	210,487	60.9			
	普通畑 平18	2,570	7.0	天然林 平19.4.1	130,286	37.7			
	耕地利用率 平18	% 91.8		人工林ha当蓄積 平19.4.1	m^3 350				
所得	農家所得一戸当り 平18	千円 2,961	% 100.0						
	農業所得 平18	1,735	58.6						
	農外所得 平18	1,226	41.4						
	生産農業所得 平18	千万円 4,793		生産林業所得 平18	百万円 4,010				
産出額	農業産出額 平18	千万円 10,947	% 100.0	林業産出額 平18	百万円 5,510	% 100.0	漁業生産額 平18	百万円 18,846	% 100.0
	米 平18	795	7.3	木材 平18	2,970	53.9	魚類 平18	11,563	61.4
	果実 平18	6,752	61.7	木炭 平18	950	17.2	水産動物類 平18	1,717	9.1
	うちみかん 平18	2,888	26.4	特用林産物 平18	1,590	28.9	海産ほ乳類 平18	189	1.0
	うち う め 平18	1,394	12.7				貝類 平18	232	1.2
	野菜 平18	1,621	14.8				海藻類 平18	283	1.5
	花き 平18	622	5.7				海面養殖 平18	4,862	25.8
	畜産 平18	585	5.3						

〔利用上の注意〕

農家調査は販売農家を抽出単位とし、センサスで確定された経営組織区分と県内農業地域に基づき部分母集団を設定した上で、部分母集団別に系統抽出された農家を対象とする標本調査であるため、その調査結果は推計による県計値となる。

（農林業の平成17年２月１日現在の数値は、2005年農林業センサスより）

（水産業を担う人々の数値は2003年「漁業センサス」、漁船の数値は「県漁船統計表調」より）

2　和歌山県の農業の特徴

1）農業産出額の構成

和歌山県の農業産出額の構成は全国・近畿とは大きく異なり、果実の構成比が61.7%と半分以上を占め果樹農業に特化している。
全　国　　畜産＞野菜＞ 米 ＞果実＞花き
近　畿　　米 ＞野菜＞畜産＞果実＞花き
和歌山　　果実＞野菜＞ 米 ＞花き＞畜産

単位：億円、%

平成18年	和歌山県		近畿		全国		全国シェア
部門	金額①	構成比	金額	構成比	金額②	構成比	(①／②)
農業産出額	1,095	100	4,717	100	86,321	100	1.3
米	80	7.3	1,287	27.3	18,894	21.9	0.4
野菜	162	14.8	1,122	23.8	20,400	23.6	0.8
果実	675	61.7	866	18.4	7,710	8.9	8.8
花き	62	5.7	221	4.7	3,988	4.6	1.6
畜産	59	5.4	882	18.7	26,512	30.7	0.2
その他	57	5.2	339	7.1	8,818	10.2	

2）耕地面積当たりと農家一戸当たりの生産農業所得

耕地面積当たりの生産農業所得は全国比194%と土地集約型農業が展開されている。

平成18年	和歌山県	近畿	全国	全国シェア	全国での順位
生産農業所得（億円）	479	1,590	31,378	1.5%	29
耕地面積10アール当たり（千円）	130	67	67		—
農家一戸当たり（千円）	1,313	564	1,102		—

（農林水産統計年報基礎資料）

3）本県基幹農作物の全国シェア（全国5位以内）

果樹ある王国「わかやま」

平成18年産出額全国順位

う　め	1位（全国シェア61.8%）	か　き	1位（全国シェア21.3%）
はっさく	1位（全国シェア66.1%）	みかん	1位（全国シェア17.3%）
いよかん	2位（全国シェア5.4%）	も　も	4位（全国シェア9.2%）

単位：億円、%

平成18年	産出額		全国シェア	1位	2位	3位	4位	5位
農作物名	和歌山県（億円）	全国（億円）						
みかん	289	1,673	17.3	**和歌山**	静岡	愛媛	熊本	長崎
うめ	139	225	61.8	**和歌山**	群馬	福井	山梨	奈良
かき	81	380	21.3	**和歌山**	奈良	岐阜	福岡	新潟
はっさく	41	62	66.1	**和歌山**	広島	愛媛	徳島	香川
さやえんどう	25	171	14.6	**和歌山**	鹿児島	愛知	福島	北海道
すもも	10	74	13.5	山梨	**和歌山**	長野	山形	福島
いちじく	9	89	10.1	愛知	**和歌山**	広島	福岡	兵庫
いよかん	6	112	5.4	愛媛	**和歌山**	佐賀	長崎	山口
キウイフルーツ	9	82	11.0	愛媛	福岡	**和歌山**	静岡	神奈川
ししとう	4	75	5.3	高知	千葉	**和歌山**	徳島	北海道
もも	47	510	9.2	山梨	福島	岡山	**和歌山**	長野

※主要農産物の産出額100位以内のもので、本県が5位以内のもの（平成18年生産農業所得統計）

3　和歌山県の林業の特徴

森林資源の概況

和歌山県の森林面積は363,583ha、森林率は77%で全国第 6 位。その内、民有林面積 は346,035haで95%を占める。

林家

2005年現在の林家数は11,935戸であるが保有林 5 ha以下の林家が全体の71.3%を占める。（ここでの林家とは保有山林面積が 1 ha以上の世帯）保有山林規模100ha以上の林家では、林家数の1.0%を占めるにすぎないが、保有面積で33.2%を占めている。

1）森林資源　～民有林を主とした森林資源の維持造成～

	全　国 %	和歌山 %	順位	全　国　順　位（上位 5 道府県）				
				1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
森　林　率	67.0	77.0	6 位	高　知	岐　阜	島　根	長　野	山　梨
人　工　林　率	41.2	60.8	10位	佐　賀	高　知	福　岡	愛　知	徳　島
国　有　林　率	31.2	5.2	42位	青　森	北海道	山　形	秋　田	群　馬
民　有　林　率	68.8	94.8	6 位	山　梨	大　阪	山　口	京　都	奈　良

（林野庁計画課「森林資源表」平成14.3.31現在）

2）民有林の森林資源の概況　～人工林の蓄積は、全国屈指の資源量～

単位：千ha、千m^3

	全　国	和歌山	順位	全　国　順　位（上位 5 道府県）				
				1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
人　工　林　面　積	7,949	210	15位	北海道	岩　手	長　野	岐　阜	高　知
人　工　林　蓄　積	1,969,804	68,355	9 位	北海道	岩　手	高　知	熊　本	宮　崎
うち　ス　ギ	1,187,419	33,383	15位	宮　崎	大　分	秋　田	熊　本	高　知
うち　ヒノキ	421,189	33,624	1 位	**和歌山**	岐　阜	高　知	静　岡	愛　媛

（林野庁計画課「森林資源表」平成14.3.31現在）

【参考】北海道の人工林は、カラマツ・トドマツ・エゾマツを中心とした資源構成。

3）林家の構成

～小規模林家による森林所有と大規模森林所有者による林業経営～

保有山林面積規模別林家数と面積（和歌山県）

単位：戸、ha、%

	累　計	1～3	3～5	5～10	10～20	20～50	50～100	100以上
林　家　数	11,935	6,225	2,284	1,640	947	573	148	118
構成比	100.0	52.2	19.1	13.8	7.9	4.8	1.2	1.0
面　積	99,505	10,311	7,956	10,623	12,039	16,069	9,509	32,999
構成比	100.0	10.3	8.0	10.7	12.1	16.1	9.6	33.2

（2005年農林業センサス）

保有山林面積規模別林家数と面積（全国）

単位：戸、ha、%

	累　計	1～3	3～5	5～10	10～20	20～50	50～100	100以上
林　家　数	919,833	526,694	165,080	120,453	64,857	32,610	6,900	3,239
構成比	100.0	57.3	17.9	13.1	7.1	3.5	0.7	0.4
面　積	5,186,792	865,145	585,024	782,222	832,741	906,912	440,955	773,793
構成比	100.0	16.7	11.3	15.1	16.0	17.5	8.5	14.9

（2005年農林業センサス）

4　和歌山県の水産業の特徴

本県の主な漁業生産の全国シェア

南北に長いリアス式海岸線を擁する和歌山県では、各地で沿岸・沖合漁業を中心に多種多様な漁業が営まれている。

漁獲量全国順位

2位　むろあじ類（全国シェア13.8%）　　3位　たちうお（全国シェア16.0%）

4位　いせえび（全国シェア11.0%）

単位：トン、%

平成18年	漁獲量等		全国シェア	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
区分	和歌山県	全国											
むろあじ類	3,267	23,671	13.8	長崎	和歌山	三重	宮崎	愛媛	静岡	高知	鹿児島	兵庫	福岡
たちうお	2,573	16,099	16.0	大分	愛媛	和歌山	広島	長崎	徳島	山口	鹿児島	兵庫	熊本
いせえび	138	1,252	11.0	千葉	三重	静岡	和歌山	鹿児島	宮崎	長崎	徳島	高知	東京
しらす	2,859	48,111	5.9	静岡	鹿児島	愛媛	愛知	兵庫	和歌山	宮崎	大分	徳島	広島
ひじき	442	8,209	5.4	長崎	千葉	三重	愛媛	大分	和歌山	神奈川	熊本	山口	鹿児島
はも	238	3,927	6.1	兵庫	徳島	大分	愛媛	山口	和歌山	熊本	宮崎	長崎	鹿児島
こういか類	406	7,065	5.7	愛媛	福岡	兵庫	大分	山口	長崎	和歌山	熊本	徳島	香川
とびうお	312	8,101	3.8	長崎	鹿児島	島根	石川	福井	東京	和歌山	高知	宮崎	鳥取
にべ･ぐち類	148	3,373	4.4	愛媛	兵庫	長崎	香川	宮崎	大分	岡山	和歌山	福岡	広島
てんぐさ類	136	3,808	3.6	静岡	愛媛	東京	徳島	兵庫	長崎	三重	和歌山	千葉	大分
まいわし	970	52,503	1.8	茨城	千葉	高知	福島	宮崎	三重	島根	宮城	和歌山	青森
いさき	207	5,262	3.9	長崎	山口	島根	福岡	大分	三重	神奈川	鹿児島	和歌山	熊本
えそ類	102	4,246	2.4	愛媛	長崎	大分	山口	福岡	熊本	鹿児島	徳島	和歌山	宮崎
うるめいわし	1,474	38,196	3.9	宮崎	島根	高知	鹿児島	長崎	愛媛	大分	三重	熊本	和歌山

Ⅱ　和歌山県の農林水産業の動向

1　農業部門

1）農業指標

本県の総農家数は36,531戸、うち販売農家数25,594戸である。販売農家のうち専兼別の比率は専業36.1%、1種兼業21.1%、2種兼業42.7%で2種兼業農家の比率が高まっている。（2005年「農林業センサス」結果より）

耕地面積は36,800haであり、その利用形態は水田31.0%、樹園地62.0%、普通畑7.0%である。

農業産出額は10,947千万円（構成比：米7.3%　果実61.7%　野菜14.8%　花き5.7%　畜産5.3%）

	平成17年		海草	那賀	伊都	有田	日高	西牟婁	東牟婁
総農家	戸 36,531	% 100.0	戸 7,423	戸 5,843	戸 4,489	戸 5,488	戸 6,628	戸 5,080	戸 1,580
販売農家	25,594	(100.0)	4,813	4,294	2,943	4,256	5,038	3,547	703
専業	9,250	25.3 (36.1)	1,538	1,373	917	1,731	1,902	1,478	308
1兼	5,408	14.8 (21.1)	804	943	554	1,147	1,129	778	51
2兼	10,936	29.9 (42.7)	2,471	1,978	1,472	1,378	2,007	1,291	335
	平成18年		海草	那賀	伊都	有田	日高	西牟婁	東牟婁
耕地面積	ha 36,800	% 100.0	ha 6,897	ha 5,923	ha 4,553	ha 6,254	ha 6,798	ha 5,373	ha 1,047
水田	11,400	31.0	3,012	2,143	1,203	626	2,342	1,427	690
樹園地	22,800	62.0 (100.0)	3,305	3,575	3,169	5,368	3,586	3,628	154
みかん	8,020	(35.2)	1,985	952	232	3,750	371	722	9
はっさく	1,230	(5.4)	113	586	75	231	188	36	2
うめ	5,440	(23.9)	124	216	221	78	2,534	2,255	11
もも	792	(3.5)	54	585	146	4	3	0	0
かき	2,930	(12.9)	291	674	1,905	37	13	10	3
普通畑	2,570	7.0	547	210	171	255	861	320	203
	平成18年		海草	那賀	伊都	有田	日高	西牟婁	東牟婁
農業産出額	千万円 10,947	% 100.0	千万円 1,897	千万円 1,992	千万円 1,195	千万円 2,320	千万円 2,148	千万円 1,245	千万円 152
米	795	7.3	242	152	76	39	148	100	37
果実	6,752	61.7	935	1,318	856	1,887	887	854	17
野菜	1,621	14.8	491	270	75	93	601	50	44
花き	622	5.7	39	97	26	68	329	50	12
畜産	585	5.3	128	χ	χ	97	χ	χ	32

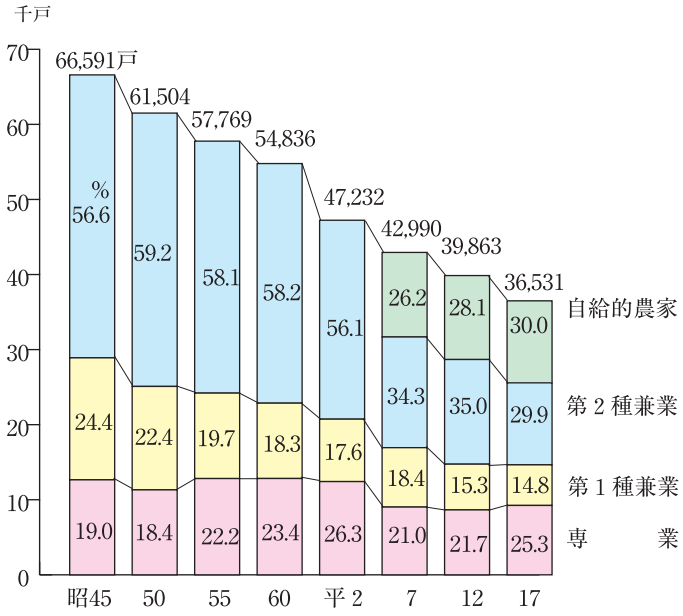
※　ラウンドしているため、各数値の積上げが、合計と一致しない場合があります。
※　「χ」は、統計法に基づく秘密保護のため、公表されていないものです。

（農林業センサス・農林水産統計年報）

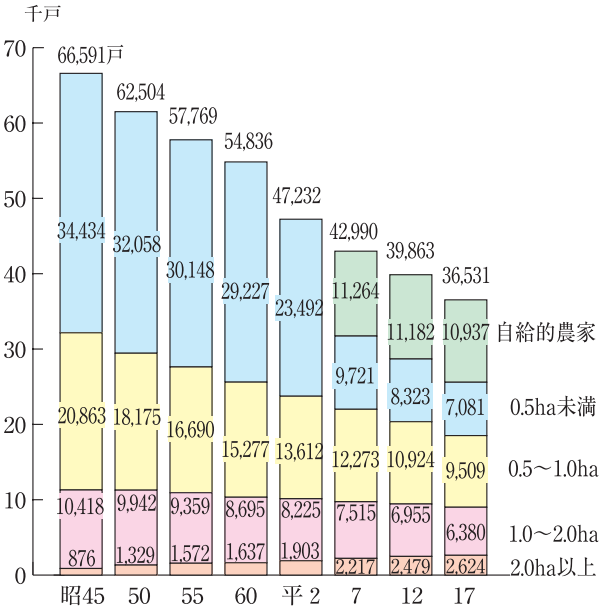
2）農業を担う人々

平成17年の農家戸数は36,531戸で減少傾向が続いている。経営規模が1ha未満の農家が75.4%を占める。年齢別の基幹的農業従事者では60歳以上の占める割合が63.4%と増加している。平成７年以降、新規就農者数は増加傾向にある。

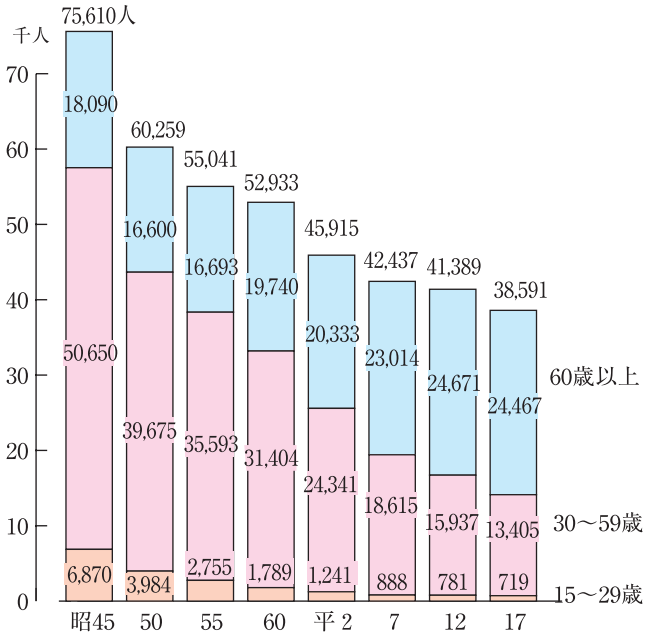
専兼業別農家数の推移



経営規模別農家数の推移



基幹的農業従事者数（年齢別）の推移



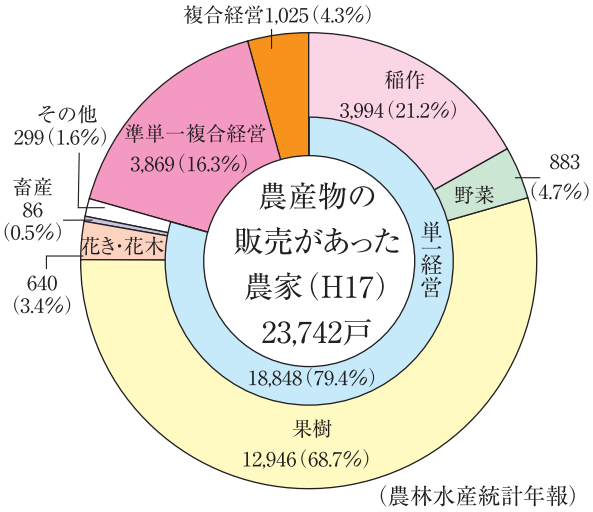
※本調査は、平成８年より調査対象が変更（総農家→販売農家）されていますので、ご利用の際は、ご注意下さい。

農家数

〔平17〕	全国	和歌山県			1位	2位	3位
	実数	実数	順位	シェア(%)	県名	県名	県名
総農家数	2,848,166	36,531	38	1.3	長野	茨城	新潟
販売農家数	1,963,424	25,594	36	1.3	茨城	新潟	福島

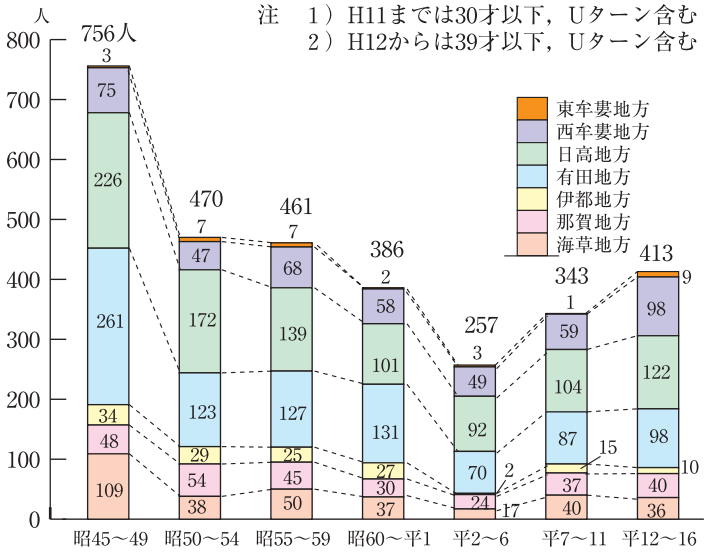
（農林業センサス・農林水産統計年報）

農業経営組織別農家数（平成17年）



（農林水産統計年報）

新規就農者数の推移

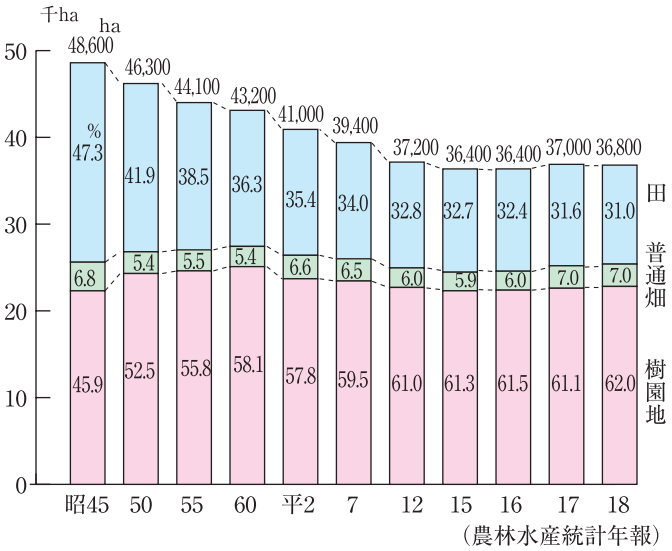


（経営支援課業務資料）

3）耕地面積

耕地面積は減少傾向にあるなかで樹園地の比率が高まっている。
施設面積は平成９年の909ha（耕地面積の2.3%）をピークに減少している。

田畑別耕地面積の推移



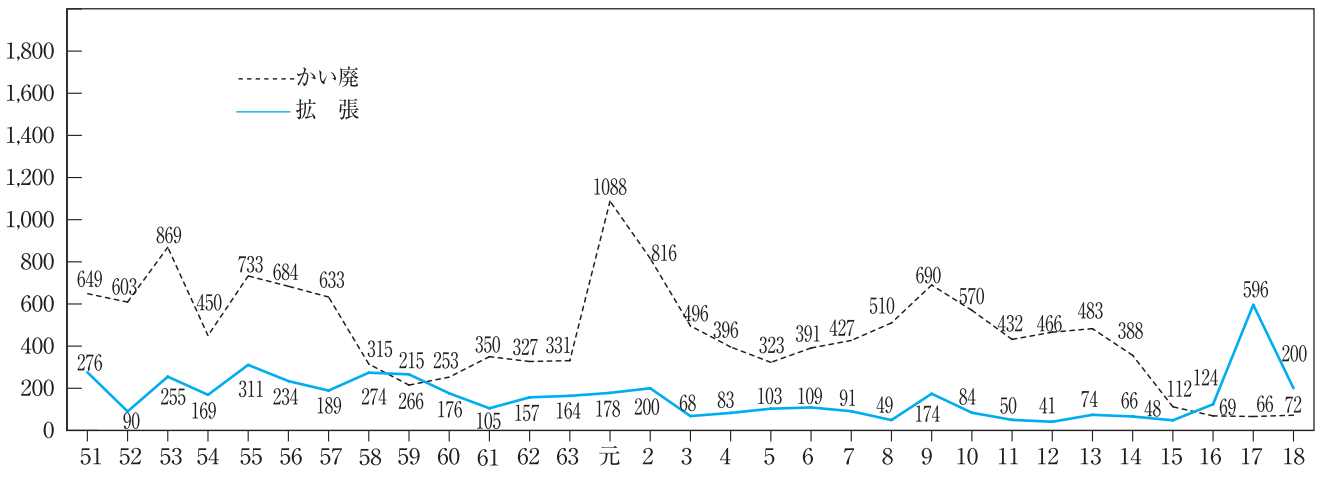
（農林水産統計年報）

耕地面積

〔平18〕	全国	和歌山県			1位	2位	3位
	実数	実数	順位	シェア(%)	県名	県名	県名
耕地面積合計(ha)	4,671,100	36,800	37	0.8	北海道	茨城 新潟	青森
田	2,543,000	11,400	42	0.4	北海道	新潟	秋田
畑	2,128,000	25,400	21	1.2	北海道	鹿児島	茨城

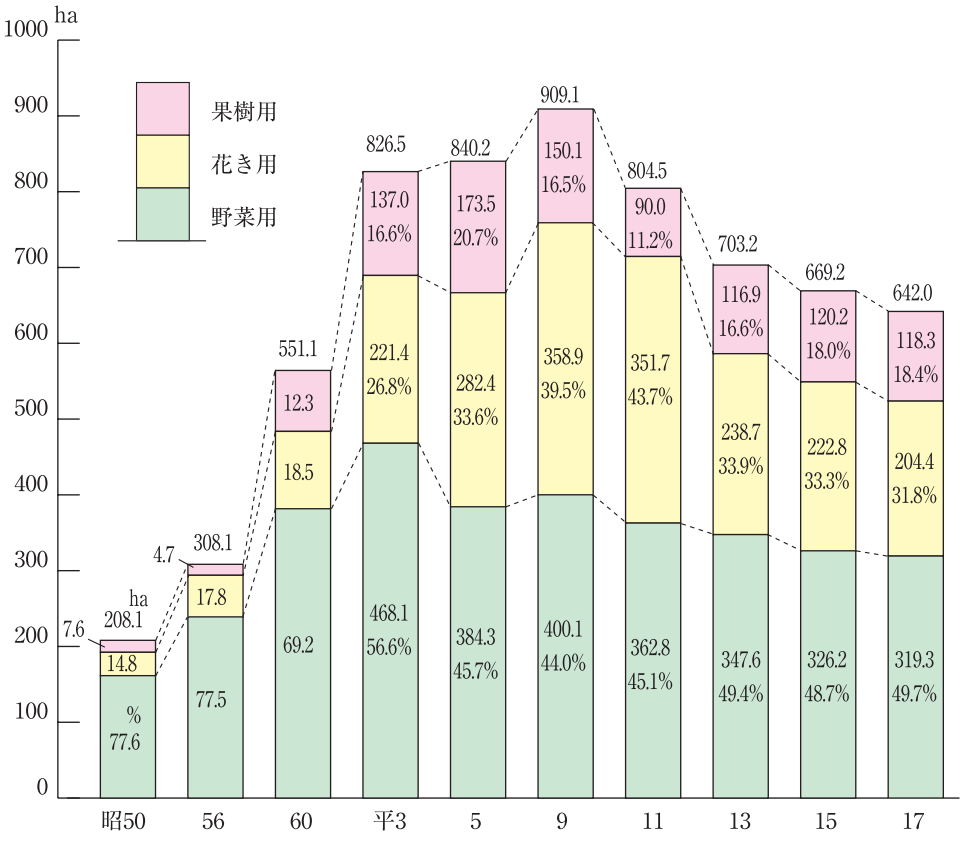
耕地の拡張・かい廃の推移

単位・ha



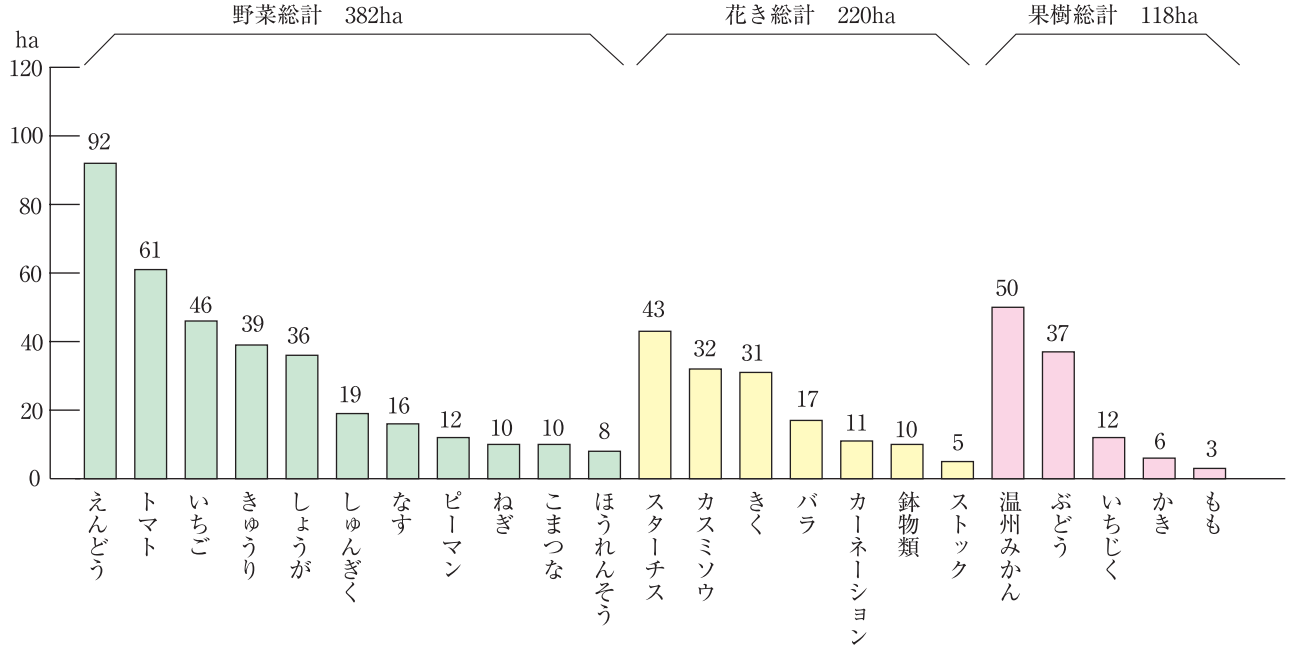
（農林水産統計年報）

施設設置面積の推移



（園芸用ガラス室、ハウス等の設置状況調査）

主要品目別施設栽培延面積（平17）



施設園芸作付延面積の推移

(ha)

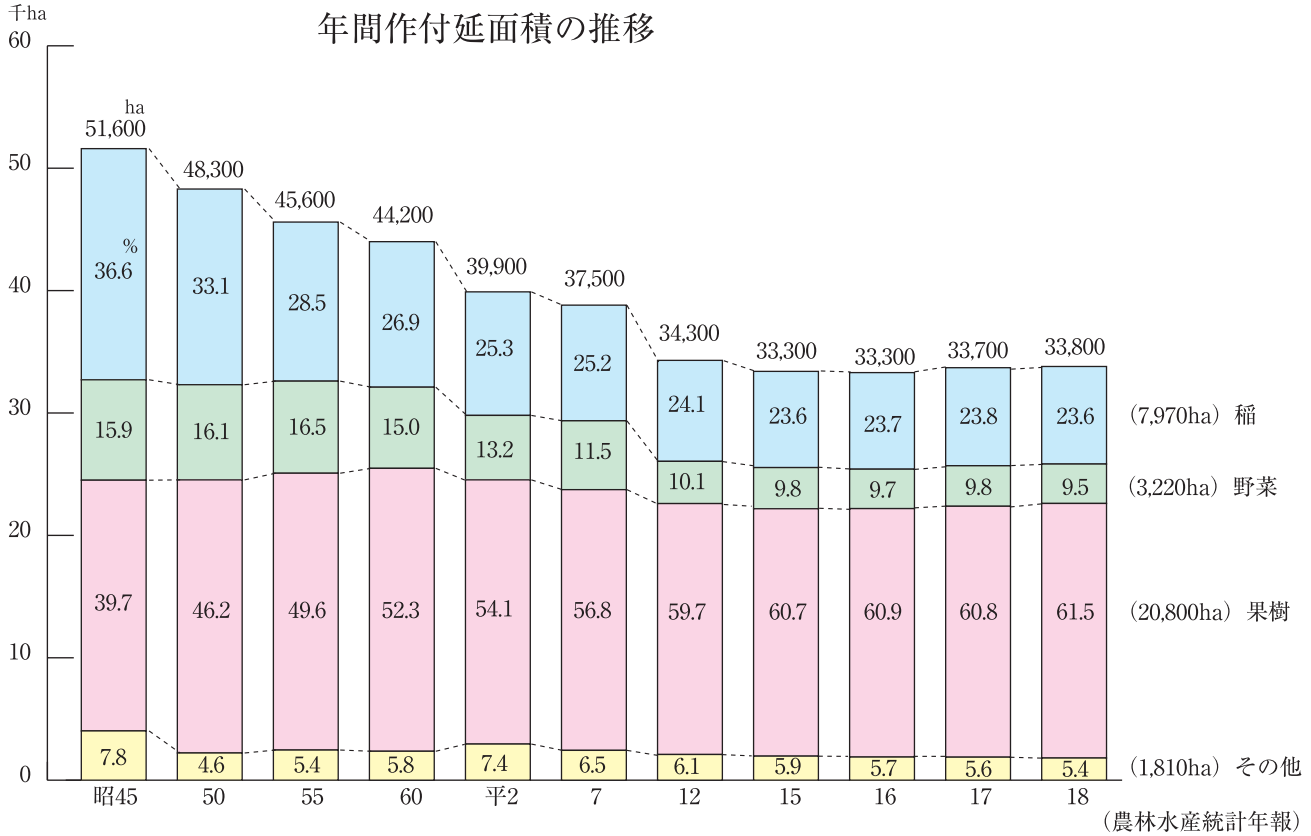
	昭50	55	60	平2	5	9	11	13	15	17
野　菜	197	358	663	580	459	474	418	432	380	382
花　き	35	79	180	276	353	413	362	266	210	220
果　樹	16	15	80	137	174	150	99	117	120	118
合　計	248	452	923	993	986	1,037	879	815	710	720

（園芸用ガラス室、ハウス等の設置状況調査）

4）農業生産

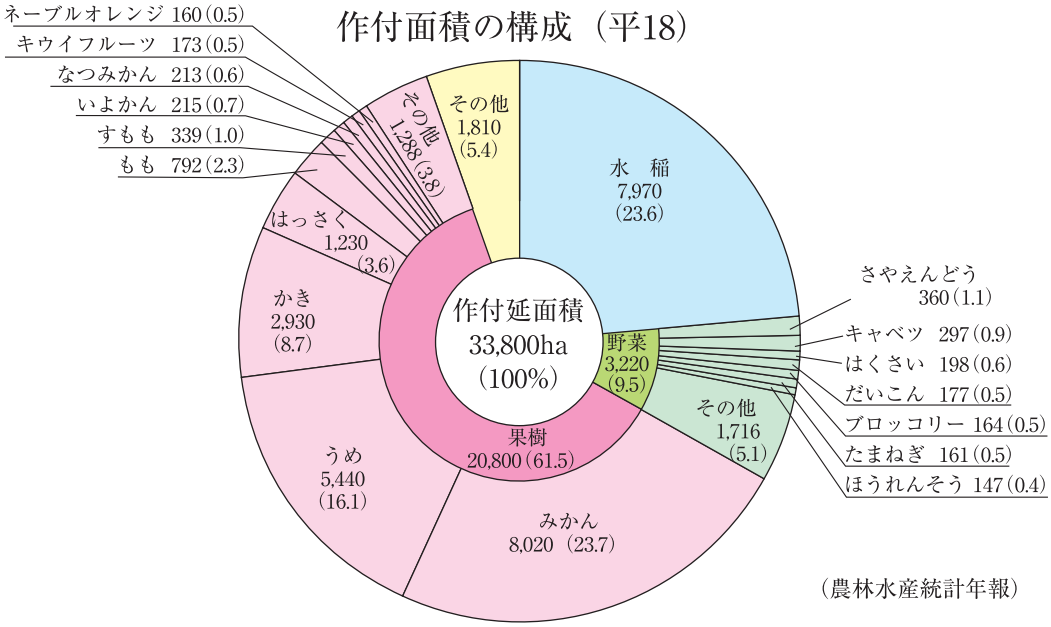
年間作付け面積の構成 —— 果樹（61.5%）・水稲（23.6%）・野菜（9.5%）
　水稲、野菜の作付け面積の減少に比べ果樹の作付け面積の減少率は低く、年々果樹のウエイトが高くなっている。

年間作付延面積の推移



（農林水産統計年報）

作付面積の構成（平18）



（農林水産統計年報）

作　付　延　面　積

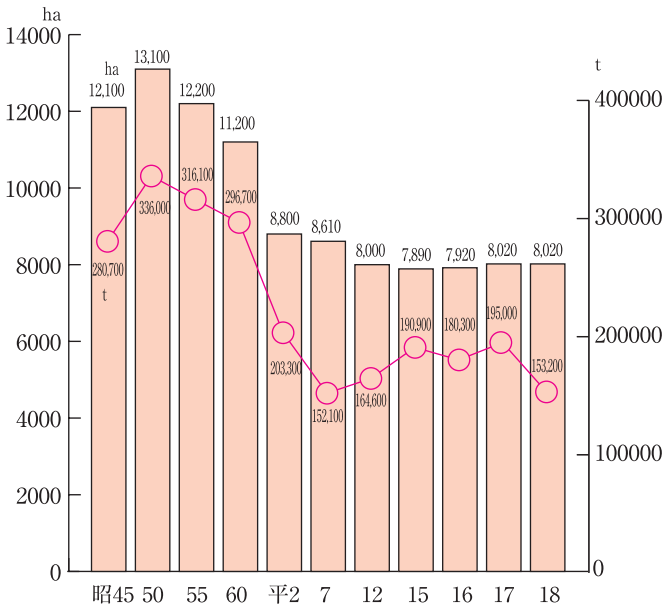
〔平18〕	全　国	和　歌　山　県			1 位	2 位	3 位
	実　数	実　数	順　位	シェア(%)	県名	県名	県名
作付延面積（ha）	4,346,000	33,800	36	0.8	北海道	茨　城	新　潟
稲	1,688,000	7,970	42	0.5	新　潟	北海道	秋　田
野　　菜	557,800	3,220	42	0.6	北海道	千　葉	茨　城
果　　樹	261,800	20,800	3	7.9	青　森	愛　媛	和歌山

かんきつ類の栽培面積及び収穫量の推移

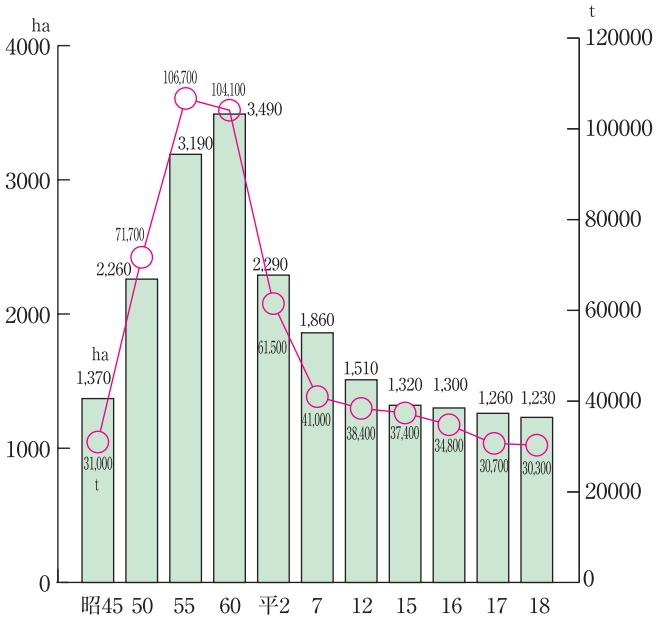
- みかん：みかんの生産過剰とオレンジ輸入自由化により昭和50年から平成２年にかけて栽培面積は急激に減少するが平成２年から緩やかな減少傾向となる。収穫量については平成８年以降、隔年結果が顕著になっている。
- はっさく・ネーブルオレンジ：みかんの転換作物として昭和60年まで栽培面積は増加するが、収益性の低下により減少する。近年減少傾向がやや鈍化している。
- いよかん：昭和60年以降、徐々に栽培面積が減少している。

平成18年の全国順位とシェア（栽培面積）――みかん１位（15.0%）・はっさく１位（47.7%）・いよかん３位（3.4%）・ネーブル４位（16.7%）

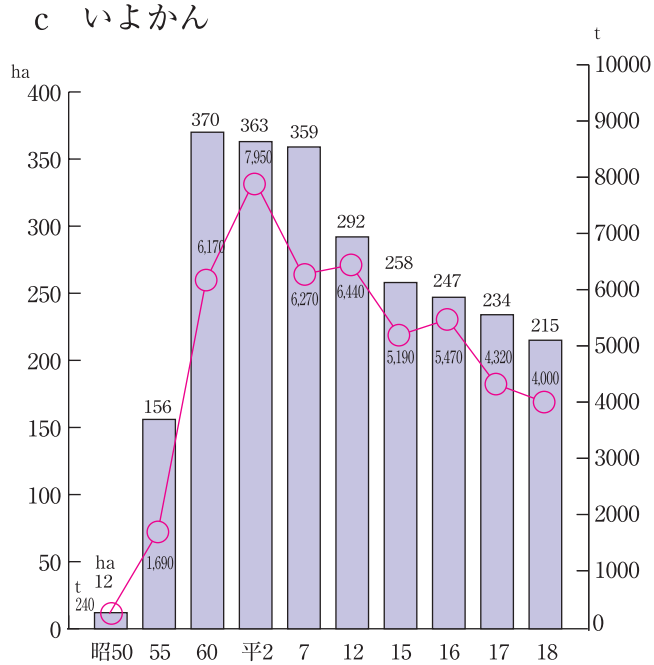
a　みかん



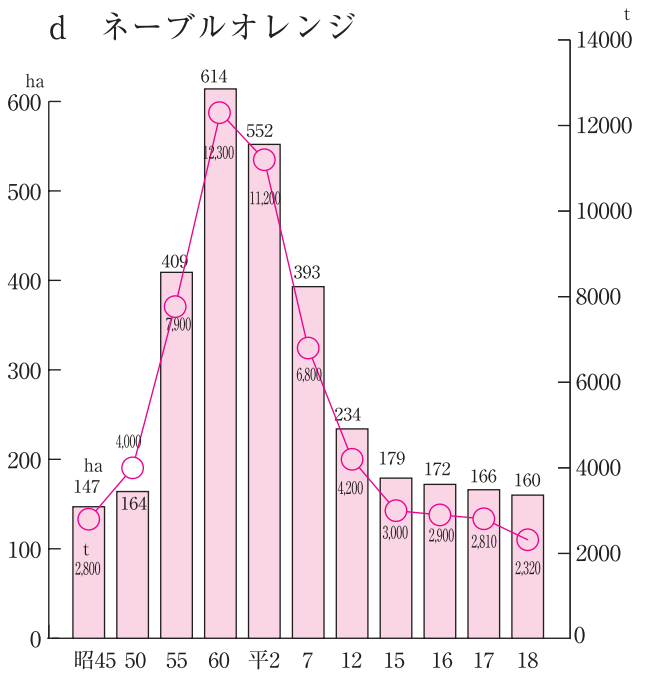
b　はっさく



c　いよかん



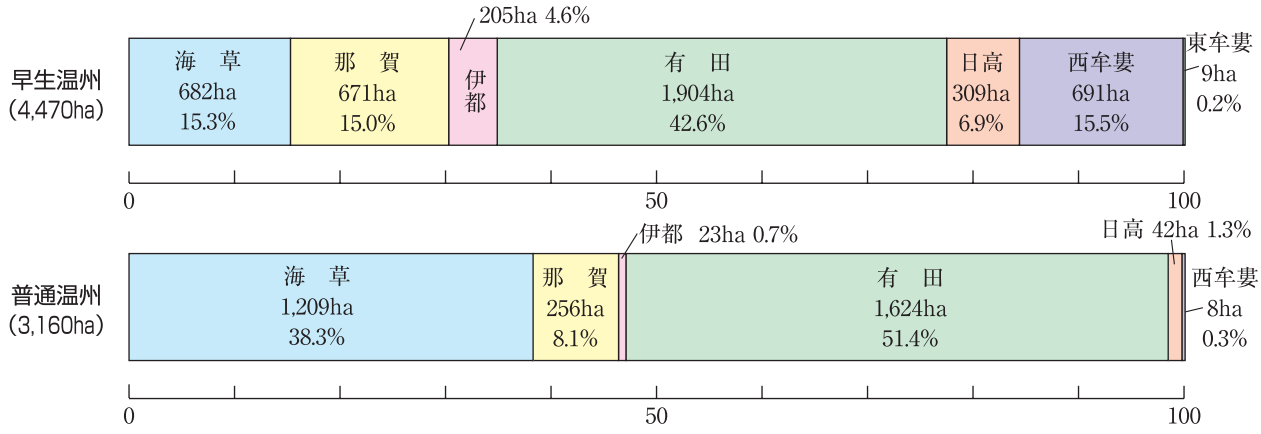
d　ネーブルオレンジ



栽培面積（ha）　収穫量（t）

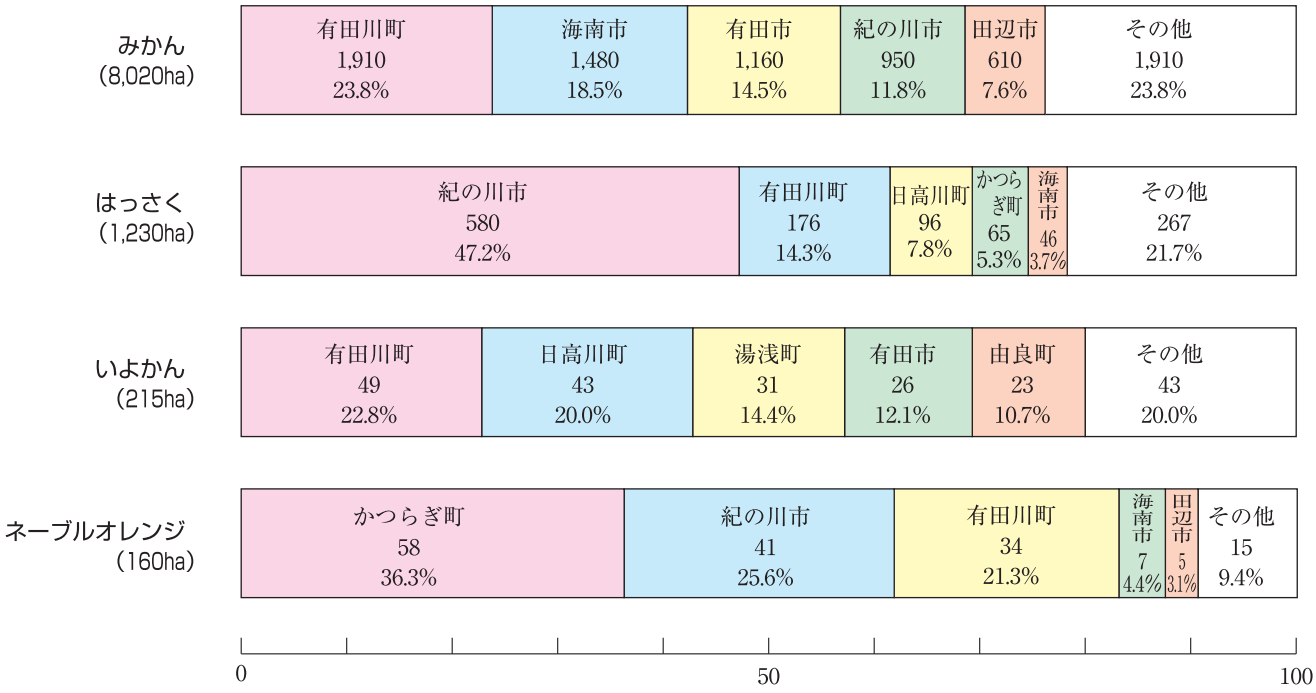
（農林水産統計年報）

郡別・みかんの結果樹面積（平18）



（農林水産統計年報）

市町村別・かんきつ類の栽培面積
〔上位５市町村〕（平18）



（農林水産統計年報）

栽　培　面　積（かんきつ類）

〔平18〕	全　国	和　歌　山　県			1位	2位	3位
	実　数	実　数	順　位	シェア(%)	県名	県名	県名
み　か　ん	53,500	8,020	1	15.0	和歌山	愛　媛	静　岡
は　っ　さ　く	2,580	1,230	1	47.7	和歌山	広　島	愛　媛
い　よ　か　ん	6,410	215	3	3.4	愛　媛	山　口	和歌山
ネ　ー　ブ　ル	960	160	4	16.7	静　岡	広　島	愛　媛

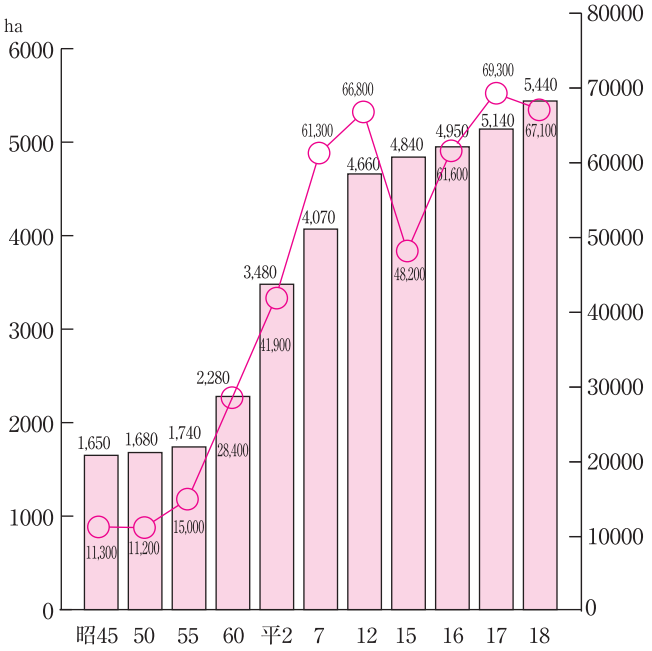
落葉果樹の栽培面積及び収穫量の推移

落葉果樹全体では、昭和55年以降みかんからの転作により栽培面積は増加傾向であったが、現在は横ばいである。

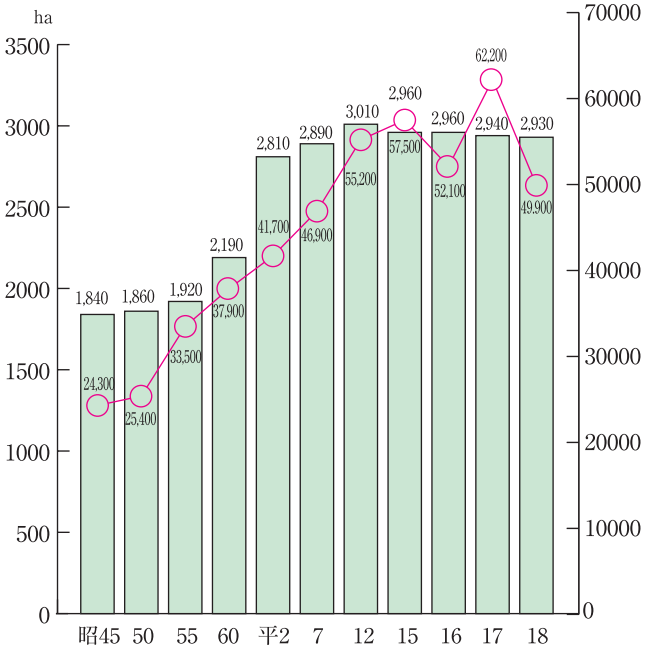
- かき・もも：昭和55年から平成２年にかけ栽培面積が急増し、それ以降は微増傾向となっている。
- うめ：昭和55年から平成７年にかけ健康食ブームと相まって栽培面積が急増し、それ以降も増加傾向である。
- すもも・キウイフルーツ：平成２年をピークに栽培面積は減少傾向、キウイは減少が著しい。

平成18年の全国順位とシェア（栽培面積）―― うめ１位（29.1%）・かき１位（11.9%）
もも４位（7.1%）・すもも３位（10.2%）
キウイフルーツ３位（6.7%）

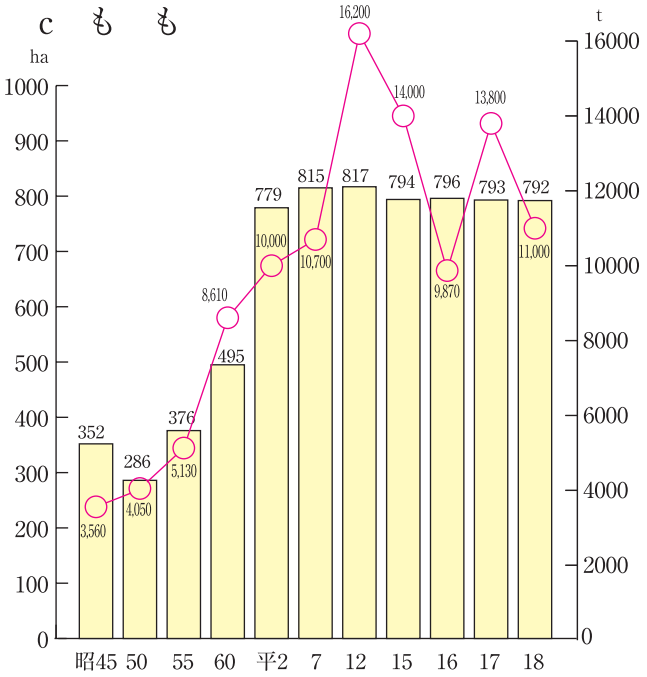
a うめ



b かき



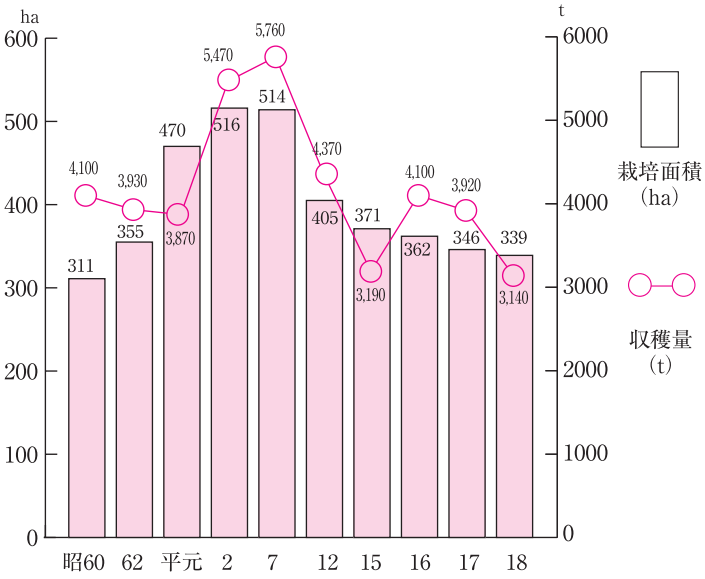
c もも



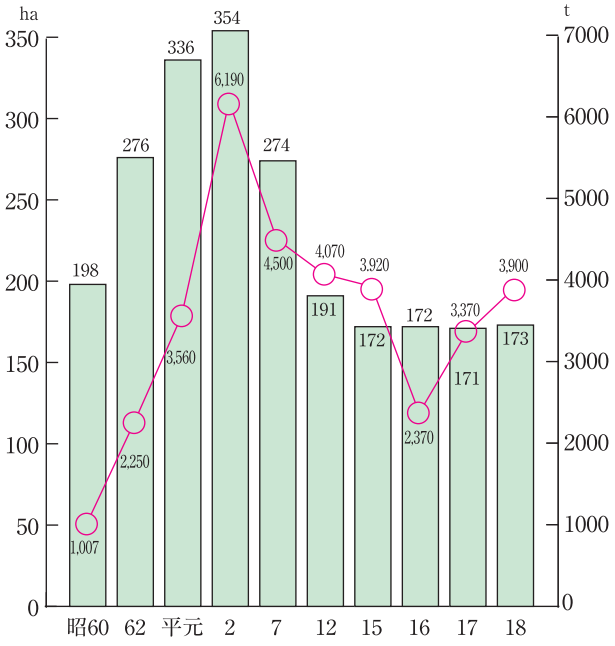
栽培面積（ha）　収穫量（t）

（農林水産統計年報）

d　すもも

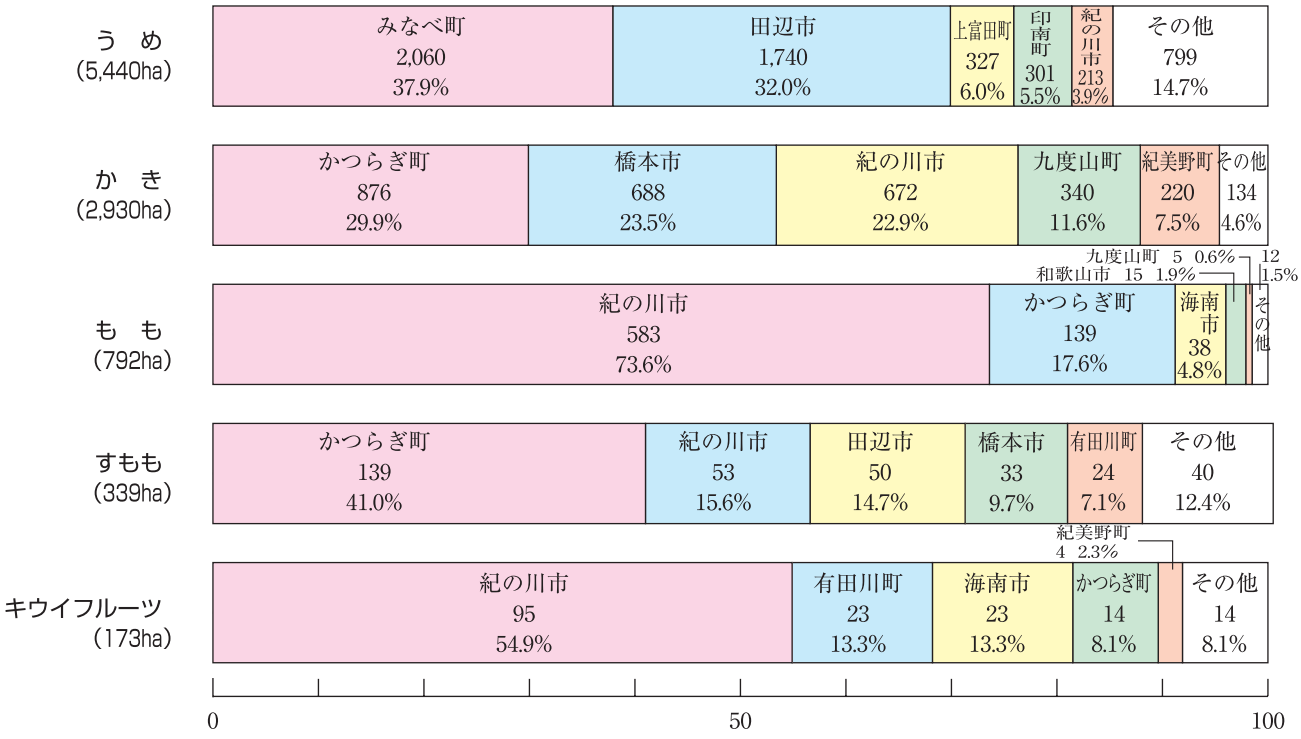


e　キウイフルーツ



（農林水産統計年報）

市町村別・落葉果樹の栽培面積（平18）



（農林水産統計年報）

栽　培　面　積（果　樹）

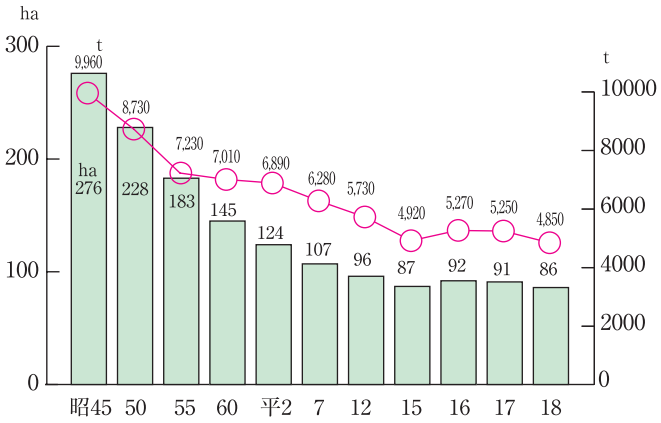
(ha)

〔平18〕	全　国	和　歌　山　県			1 位	2 位	3 位
	実　数	実　数	順　位	シェア(%)	県名	県名	県名
うめ	18,700	5,440	1	29.1	和歌山	群　馬	長　野
かき	24,600	2,930	1	11.9	和歌山	福　岡	奈　良
もも	11,200	792	4	7.1	山　梨	福　島	長　野
すもも	3,310	339	3	10.2	山　梨	長　野	和歌山
キウイフルーツ	2,590	173	3	6.7	愛　媛	福　岡	和歌山

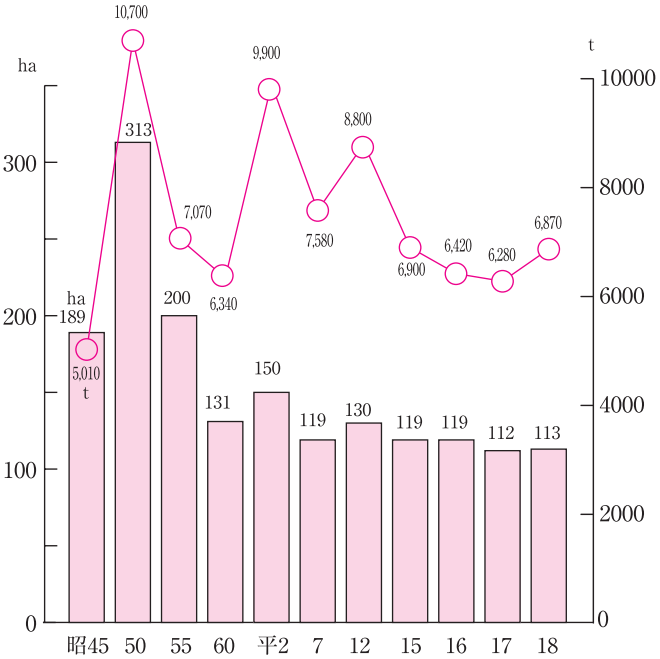
果菜類の作付面積及び収穫量の推移

栽培面積は減少傾向であるが、その傾向は近年やや鈍化している。

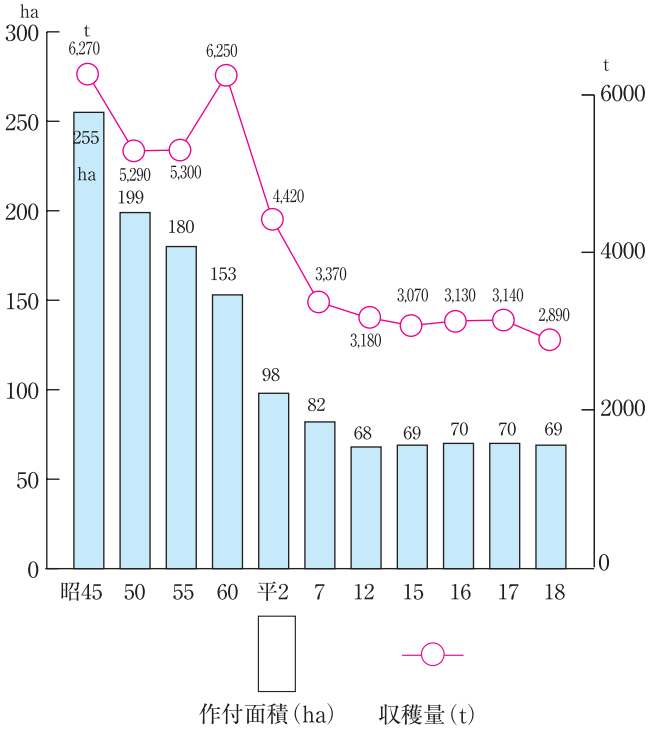
a　きゅうり



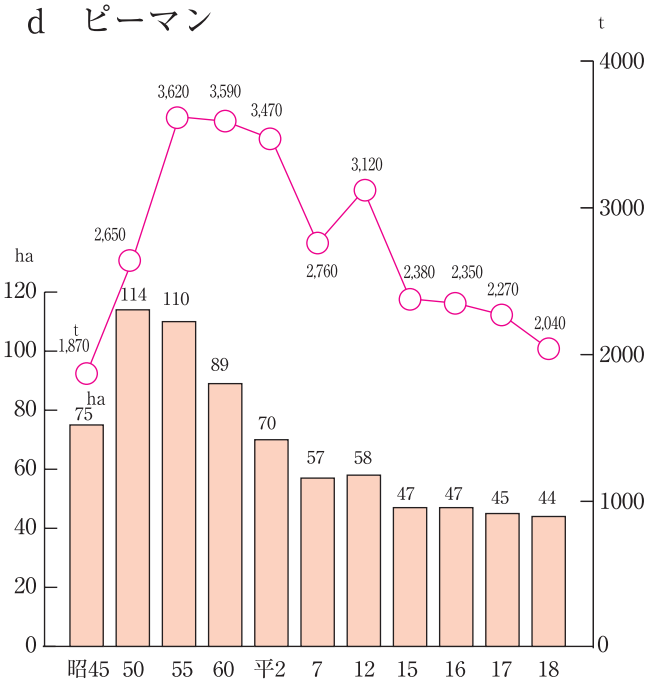
b　トマト



c　な　す

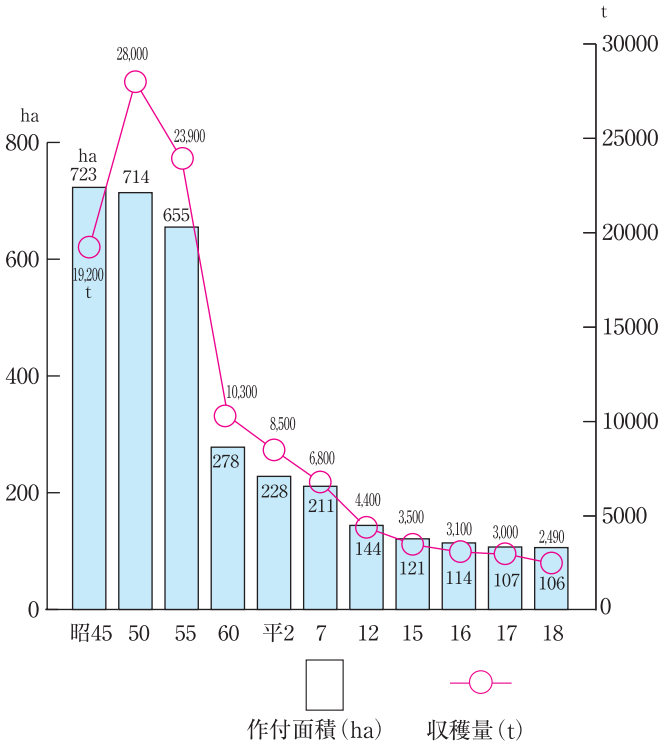


d　ピーマン

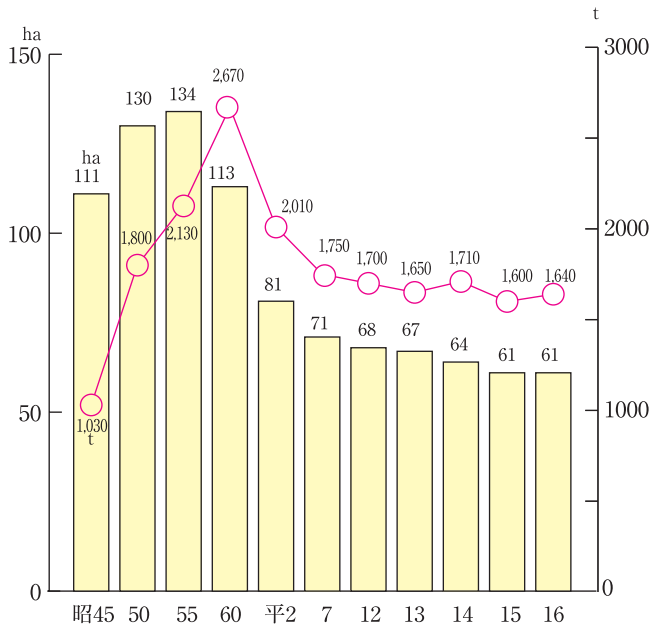


（農林水産統計年報）

e　すいか

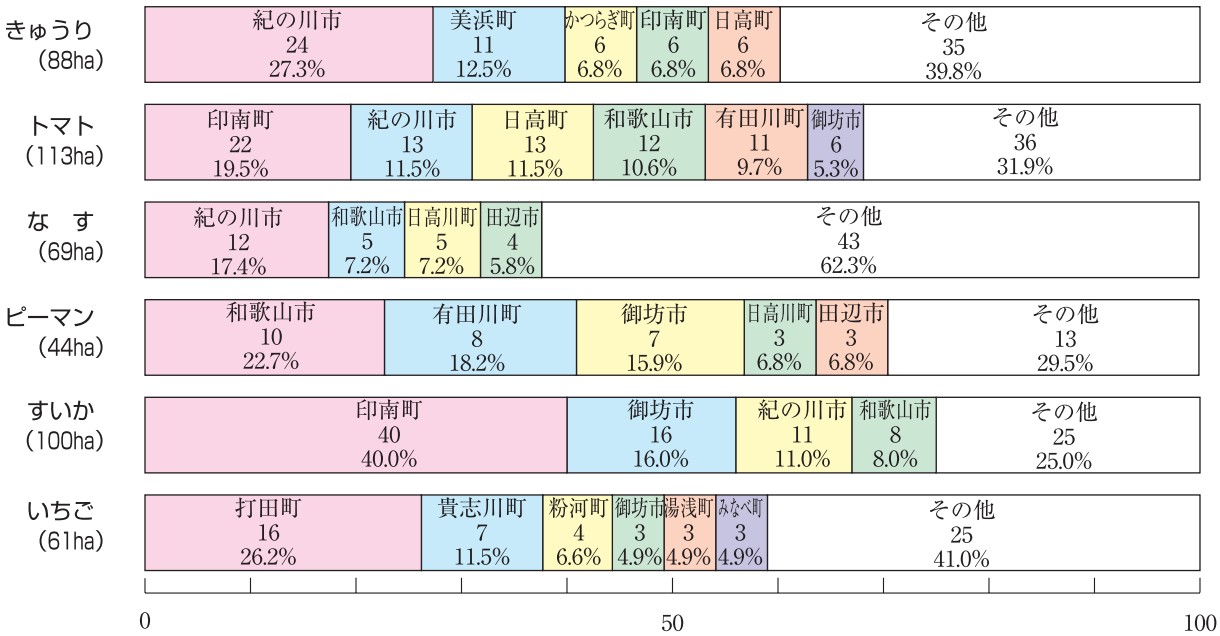


f　いちご



（農林水産統計年報）

市町村別・果菜類の作付面積（平18）



※いちごの数値は平成16年

（農林水産統計年報）

作　付　面　積（果菜類）

（ha）

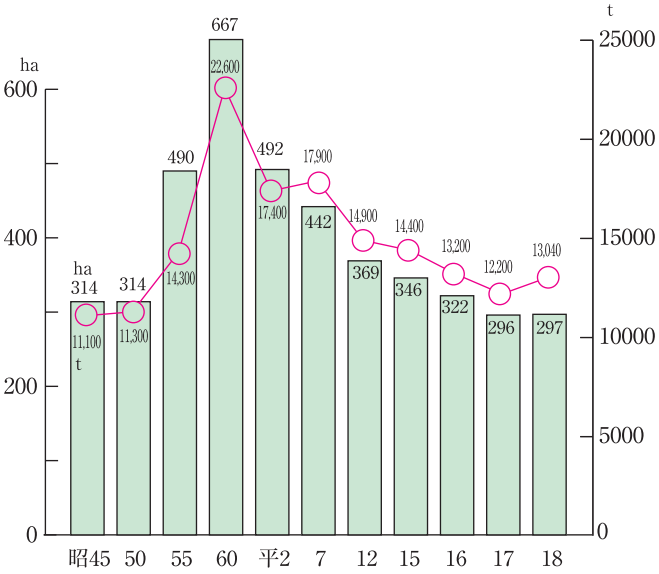
〔平18〕	全　国	和　歌　山　県			1位	2位	3位
	実　数	実　数	順　位	シェア(%)	県名	県名	県名
きゅうり	13,100	88	41	0.7	群　馬	福　島	宮　崎
トマト	12,900	113	39	0.9	熊　本	茨　城	千　葉
なす	11,100	69	21	0.6	高　知	群　馬	熊　本
ピーマン	3,540	44	6	1.2	茨　城	宮　崎	岩　手
すいか	13,000	100	24	0.8	熊　本	千　葉	山　形
いちご	6,880	61	33	0.9	栃　木	福　岡	熊　本

※いちごの数値は平成16年
※県順位は、公表されている統計数値から作成した。

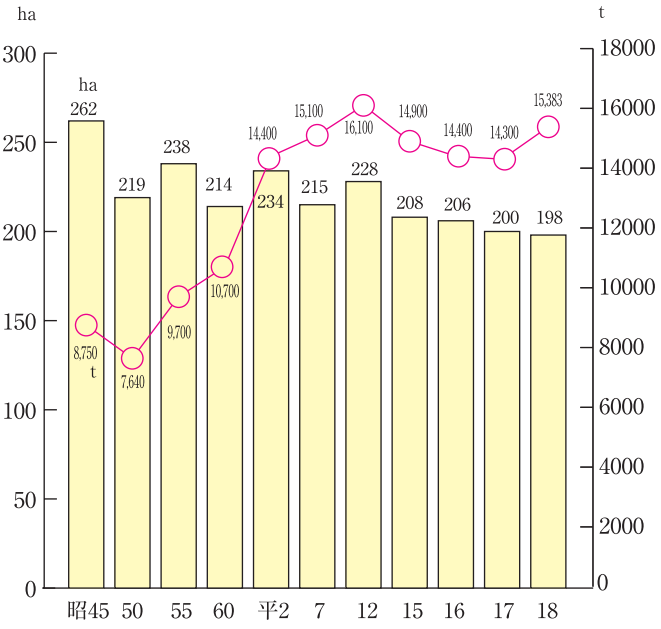
葉茎菜類の作付面積及び収穫量の推移

- たまねぎ・レタス・キャベツ・はくさい：近年、栽培面積、収穫量ともに微減傾向にある。
- ほうれんそう：近年、栽培面積・収穫量とも増加傾向である。

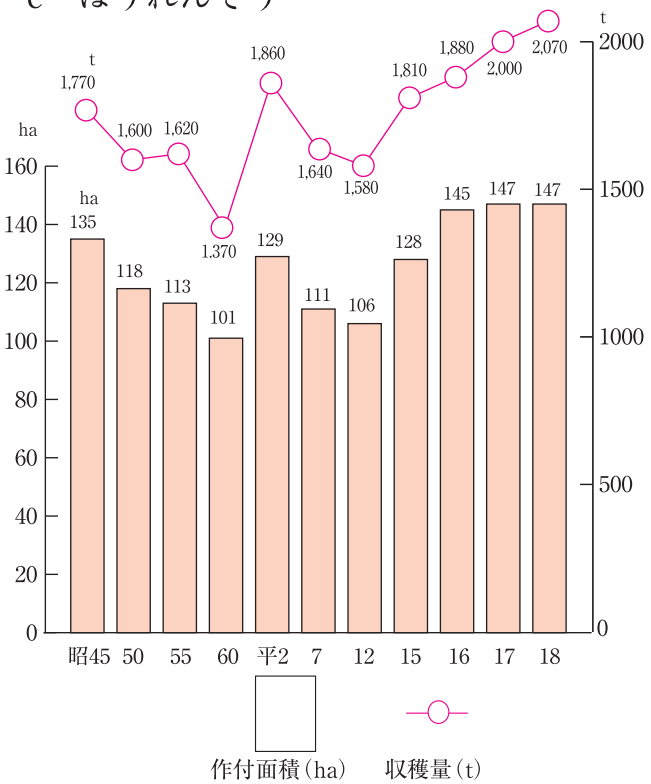
a　キャベツ



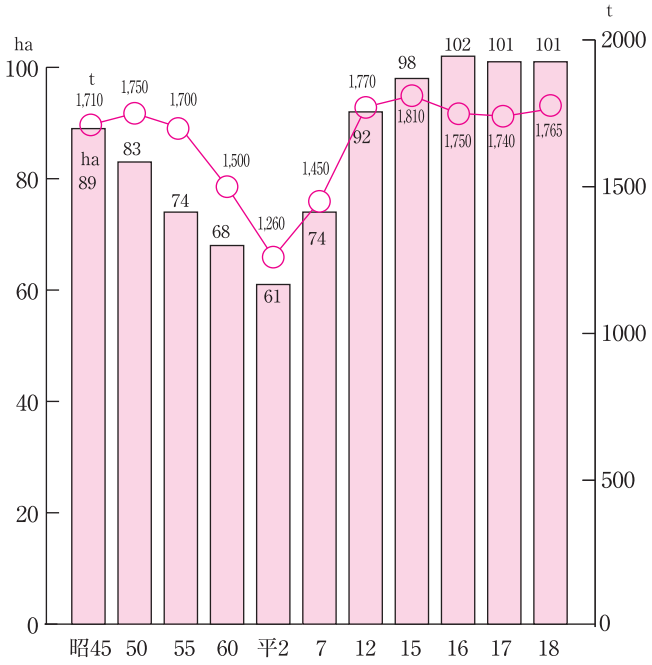
b　はくさい



c　ほうれんそう

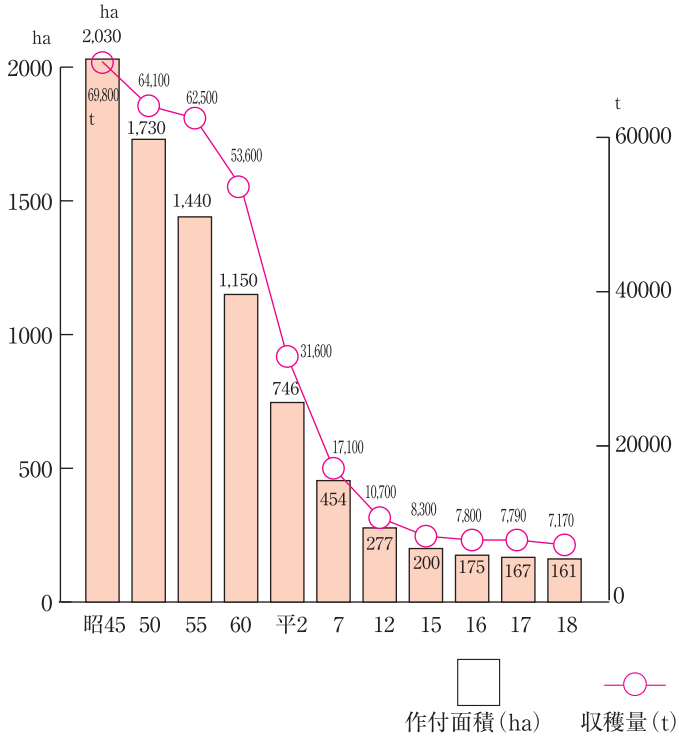


d　ね　ぎ

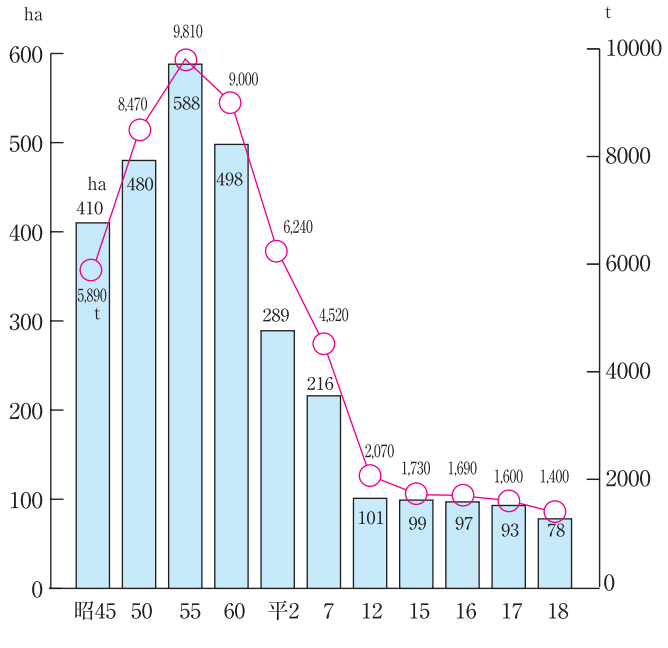


（農林水産統計年報）

e　たまねぎ

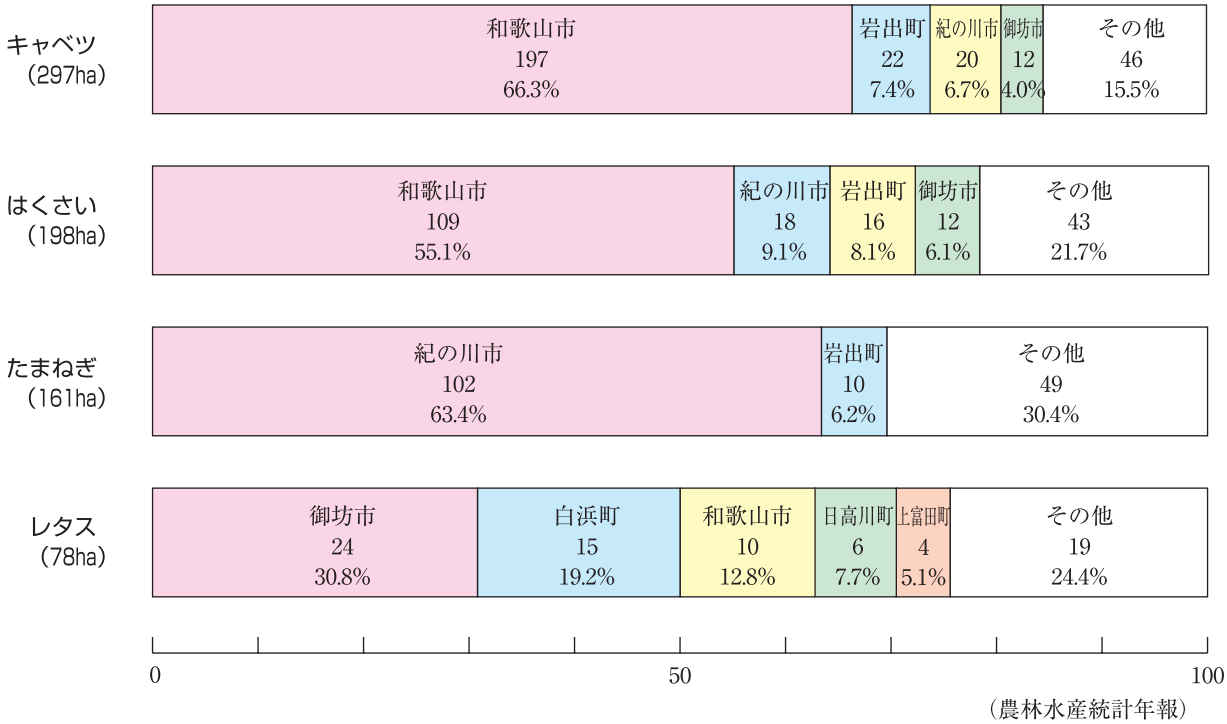


f　レタス



（農林水産統計年報）

市町村別・葉茎菜類の作付面積（平18）



（農林水産統計年報）

作　付　面　積（葉茎菜類）

（ha）

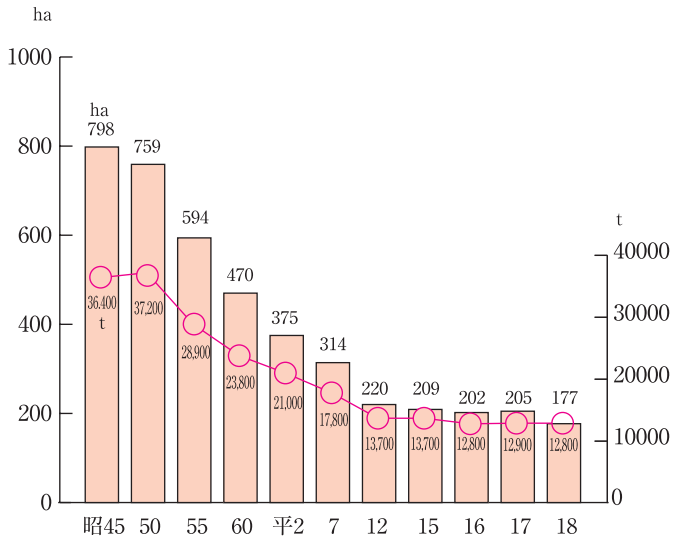
〔平18〕	全　国	和　歌　山　県			1位	2位	3位
	実　数	実　数	順　位	シェア(%)	県名	県名	県名
キ　ャ　ベ　ツ	35,910	297	28	0.8	愛　知	群　馬	千　葉
は　く　さ　い	19,220	198	28	1.0	茨　城	長　野	北海道
ほうれんそう	23,300	147	36	0.6	千　葉	埼　玉	群　馬
ね　　ぎ	22,710	101	35	0.4	千　葉	埼　玉	北海道
た　ま　ね　ぎ	23,600	161	22	0.7	北海道	佐　賀	兵　庫
レ　　タ　　ス	21,100	78	32	0.4	長　野	茨　城	群　馬

※県順位は、公表されている統計数値から作成した。「－」は不明。

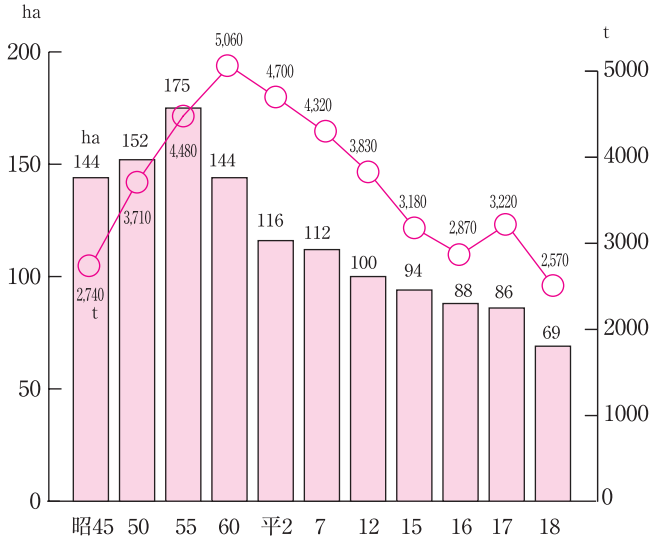
根菜類及び豆類の作付面積と収穫量の推移

- だいこん・にんじん：需要の減少により、栽培面積の減少が続いていたが、その傾向は近年やや鈍化している。
- さやえんどう：近年、栽培面積、収穫量ともに減少傾向である。

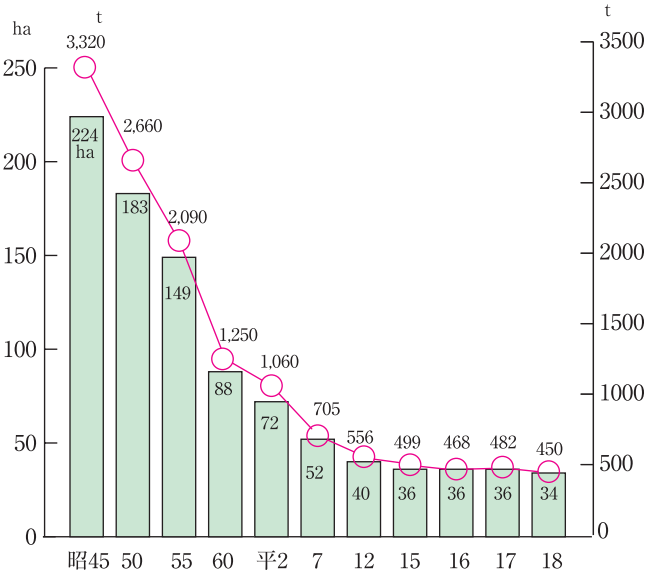
a　だいこん



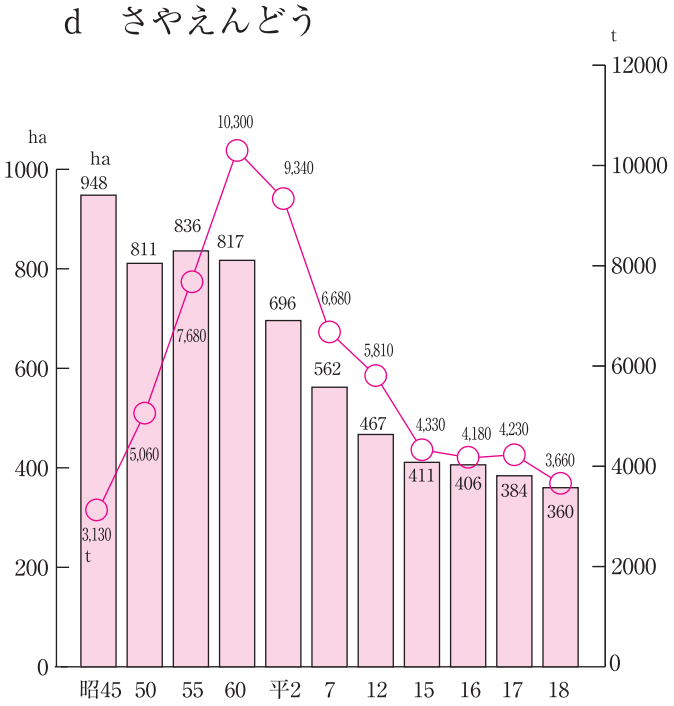
b　にんじん



c　さといも



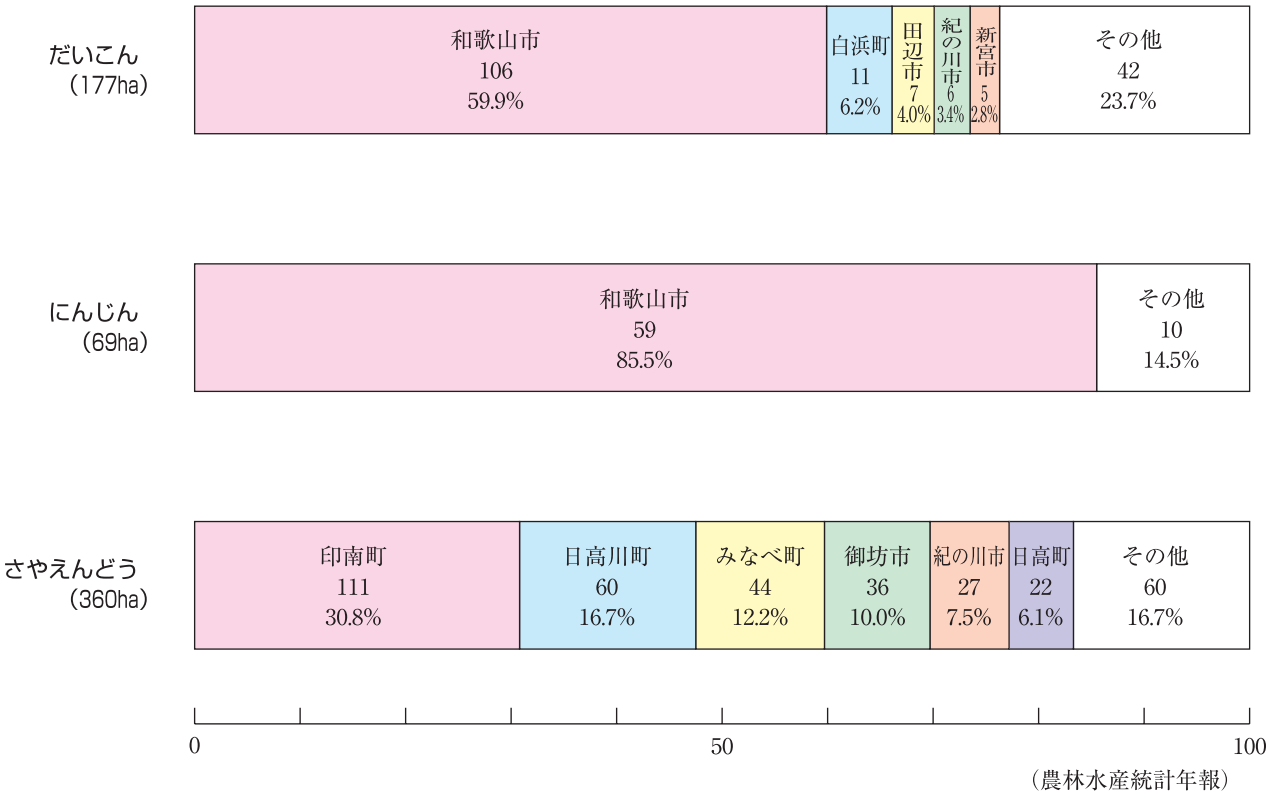
d　さやえんどう



作付面積（ha）　収穫量（t）

（農林水産統計年報）

市町村別・根菜類及び豆類の作付面積（平18）



（農林水産統計年報）

作　付　面　積（根菜類・豆類）

（ha）

〔平18〕	全　国	和　歌　山　県			1 位	2 位	3 位
	実　数	実　数	順　位	シェア(%)	県名	県名	県名
だ　い　こ　ん	38,250	177	42	0.5	北海道	青　森	千　葉
に　ん　じ　ん	17,110	69	33	0.4	北海道	千　葉	青　森
さ　と　い　も	14,400	34	44	0.2	千　葉	宮　崎	埼　玉
さやえんどう	4,460	360	3	8.0	鹿児島	福　島	和歌山

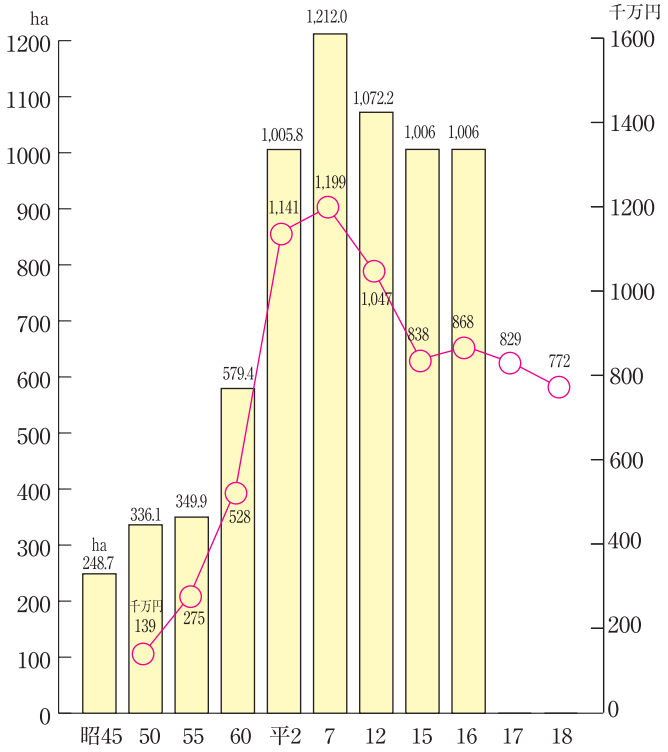
※県順位は、公表されている統計数値から作成した。

（野菜生産出荷統計）

花き生産の推移

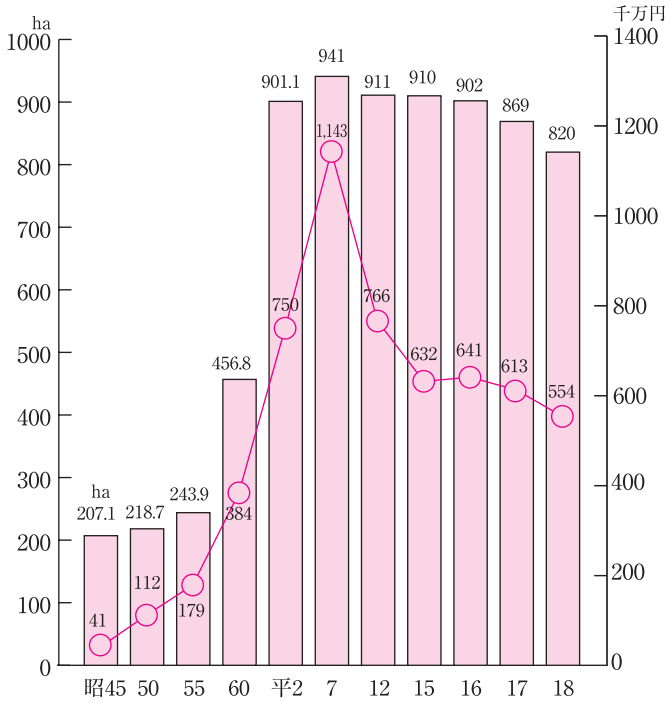
花き全体の栽培面積は昭和60年から平成２年にかけ需要の増加や野菜からの転換により急激に増加している。その後の推移は平成６年をピークに微減となっている。

総　計

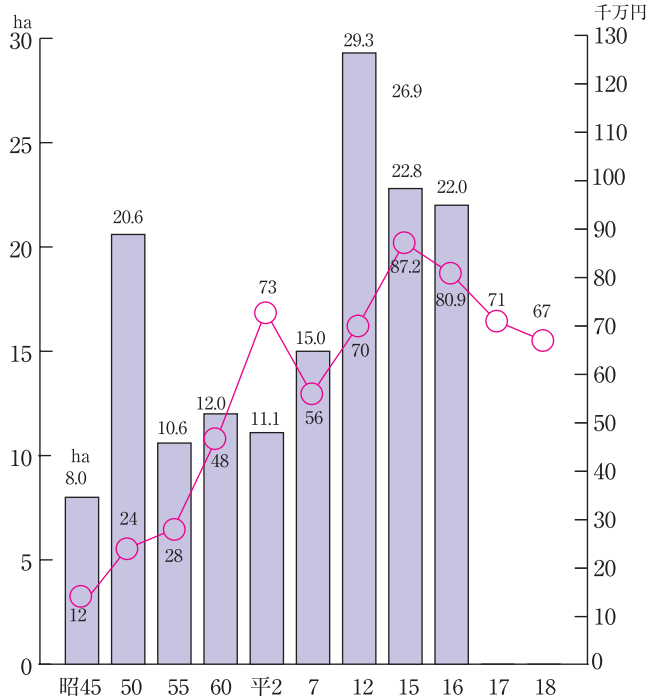


※平17・18の作付面積の数値はない。

b　切　花

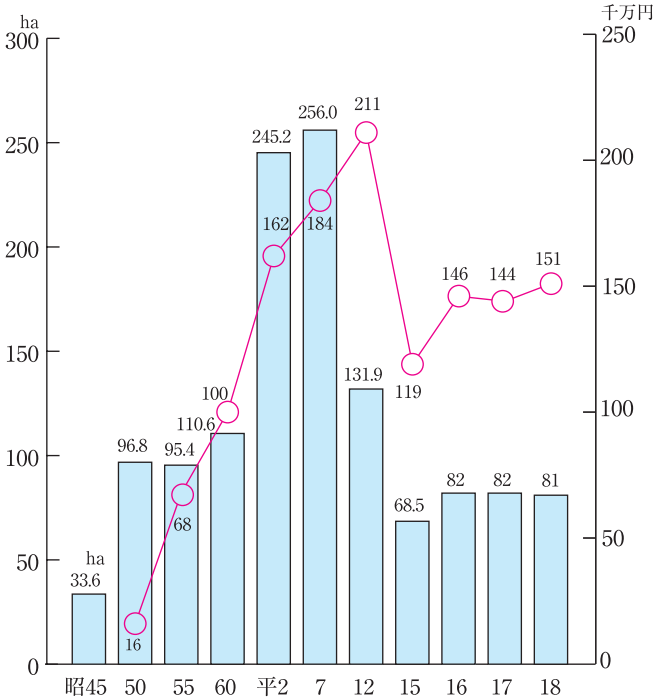


c　鉢物・花壇苗



※平17・18の作付面積の数値はない。

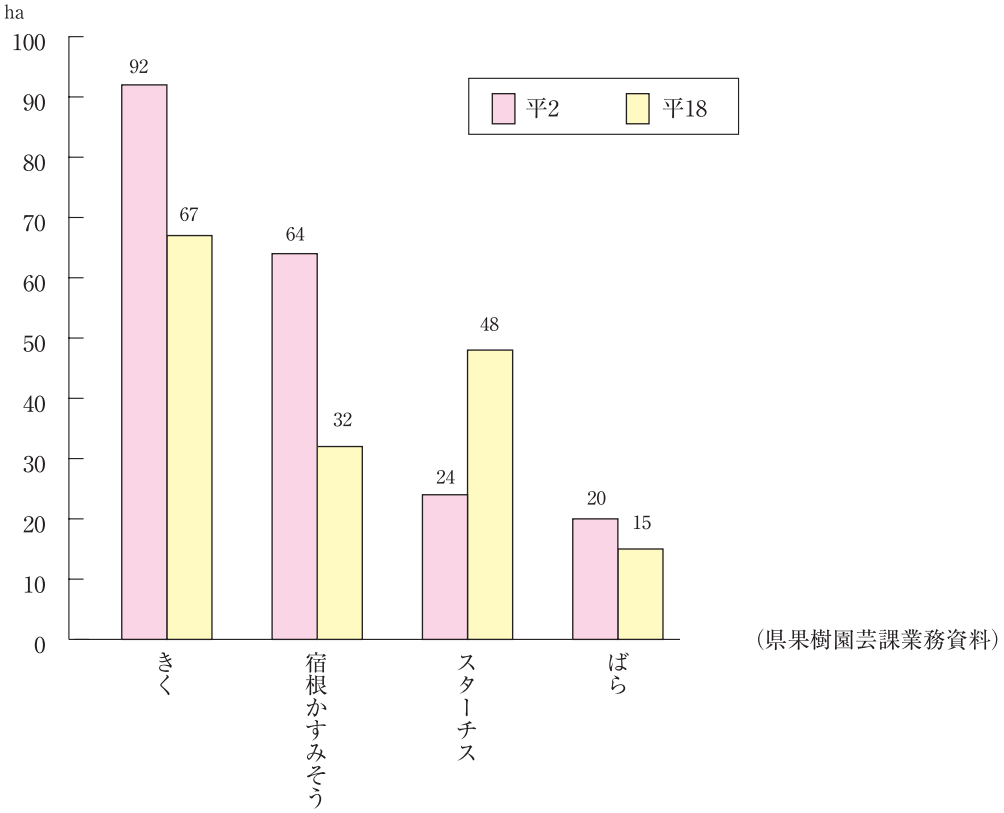
d　花木類等



作付面積（ha）　生産額（千万円）

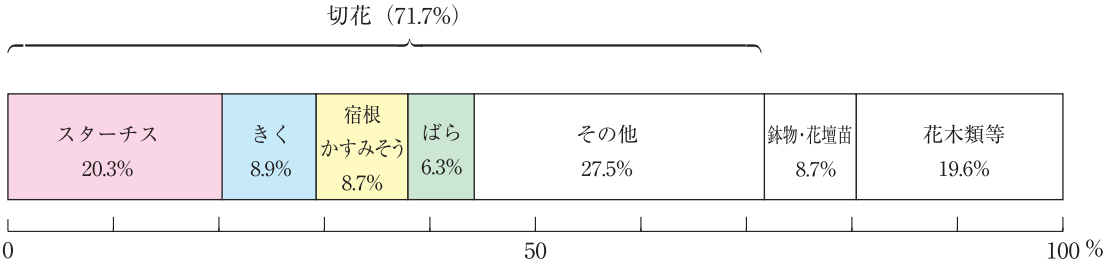
（県果樹園芸課業務資料）

主要切花の作付面積（平18）



（県果樹園芸課業務資料）

花き生産額の部門別割合（平18）



（県果樹園芸課業務資料）

作　付　面　積（花　き）

（ha）

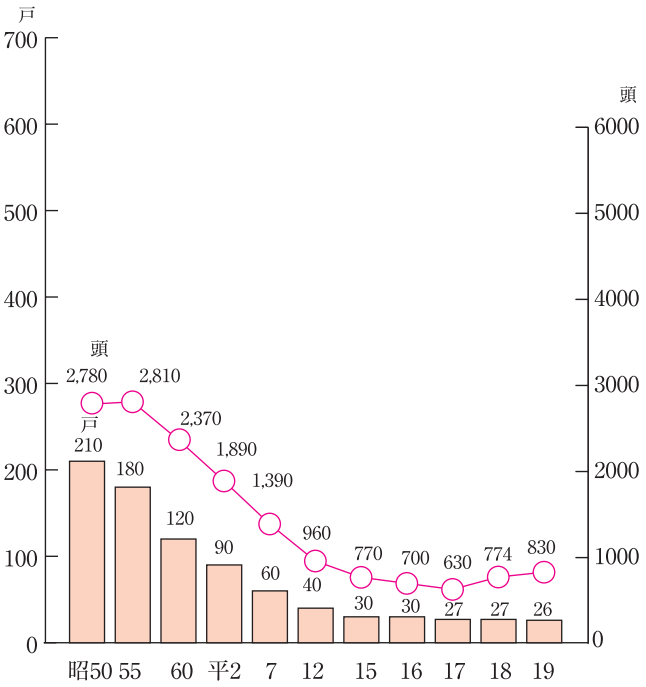
〔平18〕	全　国	和　歌　山　県			1 位	2 位	3 位
	実　数	実　数	順　位	シェア(%)	県名	県名	県名
き　く	5,715	67	20	1.2	愛　知	沖　縄	鹿児島
宿根かすみそう	289	32	3	11.1	熊　本	福　島	和歌山
ス　タ　ー　チ　ス	250	48	2	19.2	北海道	和歌山	長　野
ば　ら	490	15	10	3.1	愛　知	静　岡	福　岡

家畜の飼養戸数及び飼養頭羽数の推移

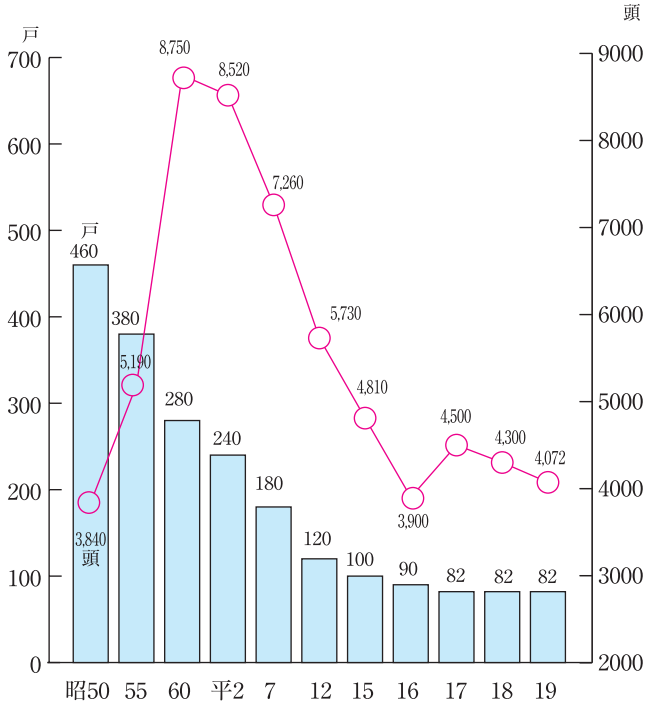
畜産農家はいずれの部門も横ばいである。また、飼育頭数は乳牛、肉用牛、豚ともに昭和55年～60年をピークに減少傾向にあったが、乳用牛においては平成18年からは増加している。

採卵鶏の飼育羽数は昭和50年から平成19年にかけて変化は少ないが、統計調査の飼育戸数農家の対象の変化もあり（平成元年より300羽以上のみ、平成９年より1,000羽以上のみ、平成14年より種鶏農家除く）、平成２年以降飼育戸数が1/10になるとともに経営の大規模化が図られている。

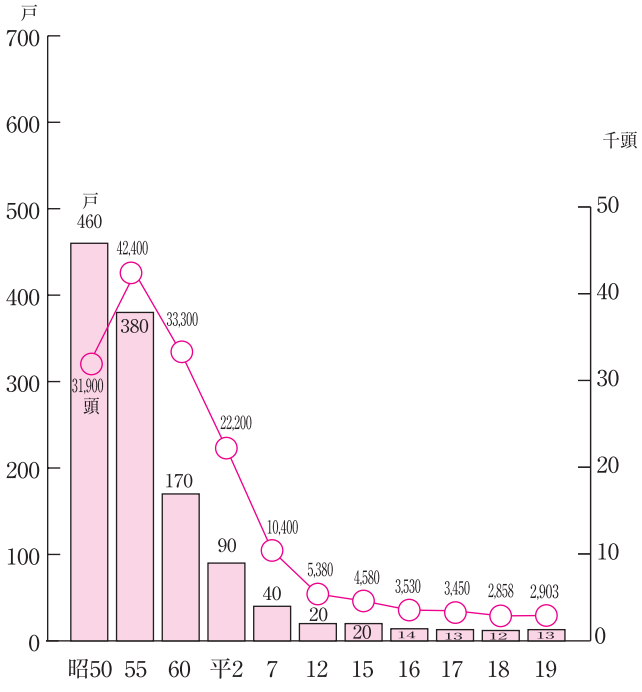
a　乳用牛



b　肉用牛



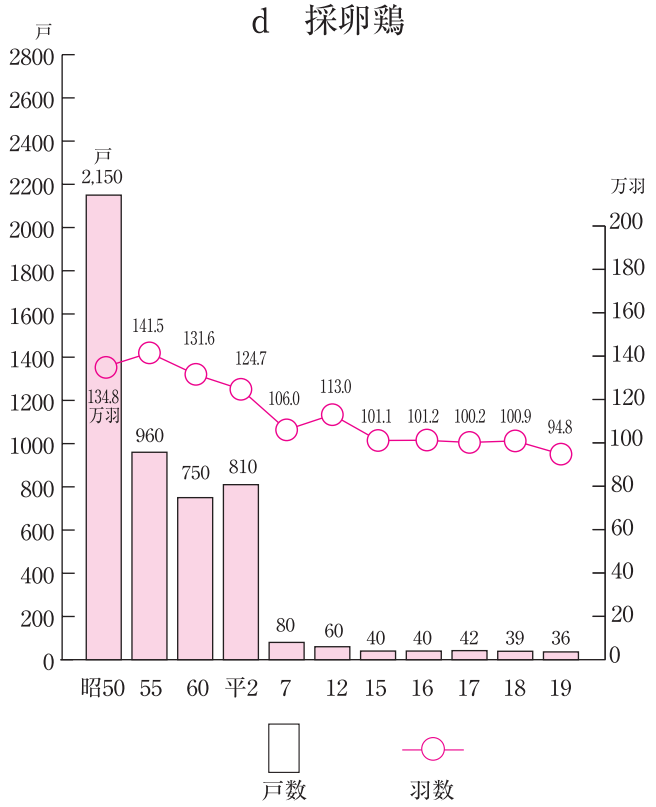
c　豚



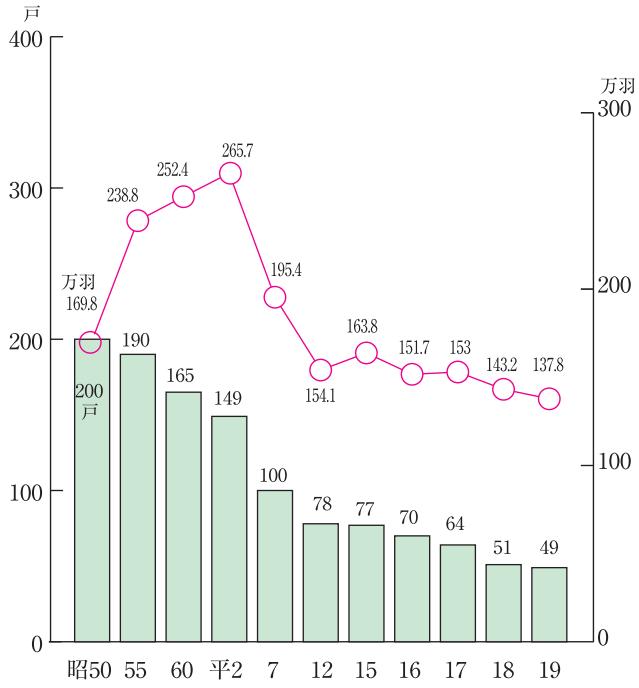
戸数　　頭数

（農林水産統計年報）

d　採卵鶏

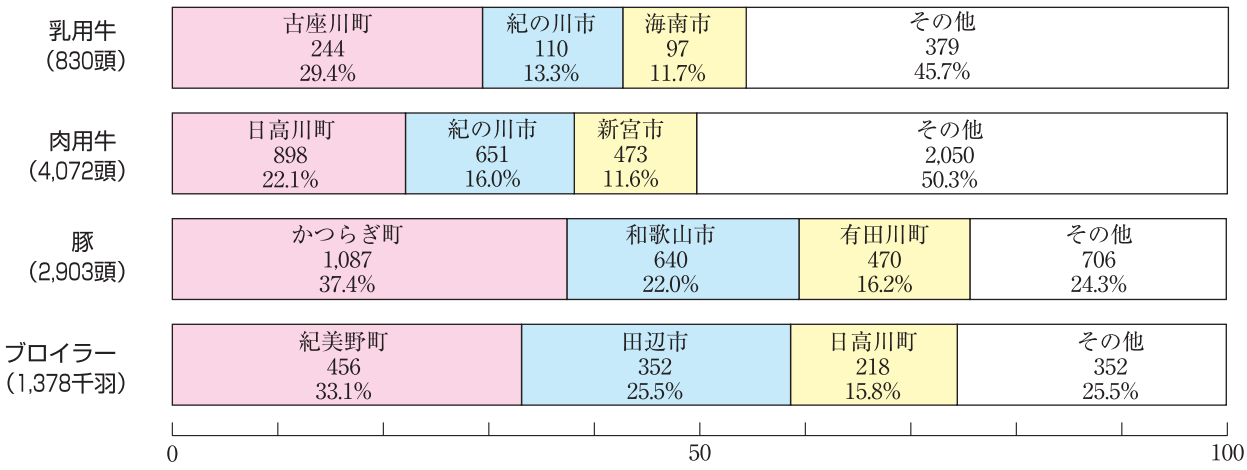


e　ブロイラー



（農林水産統計年報）

市町村別・家畜飼養頭羽数（平19）



（県畜産課業務資料）

家畜の飼養頭羽数・戸数

〔平19.2.1現在〕		全国	和歌山県			1位	2位	3位
		実数	実数	順位	シェア(%)	県名	県名	県名
飼養頭羽数	乳用牛（頭）	1,592,000	830	47	0.1	北海道	栃木	岩手
	肉用牛（頭）	2,806,000	4,070	43	0.2	北海道	鹿児島	宮崎
	豚（頭）	9,759,000	2,903	47	0.1	鹿児島	宮崎	茨城
	採卵鶏（千羽）	183,224	948	36	0.6	千葉	茨城	愛知
飼養戸数（戸）	乳用牛	25,400	26	47	0.1	北海道	岩手	千葉
	肉用牛	82,300	8	42	0.1	鹿児島	宮崎	岩手
	豚	7,550	13	46	0.2	鹿児島	宮崎	茨城
	採卵鶏	3,460	36	34	1.0	愛知	鹿児島	千葉

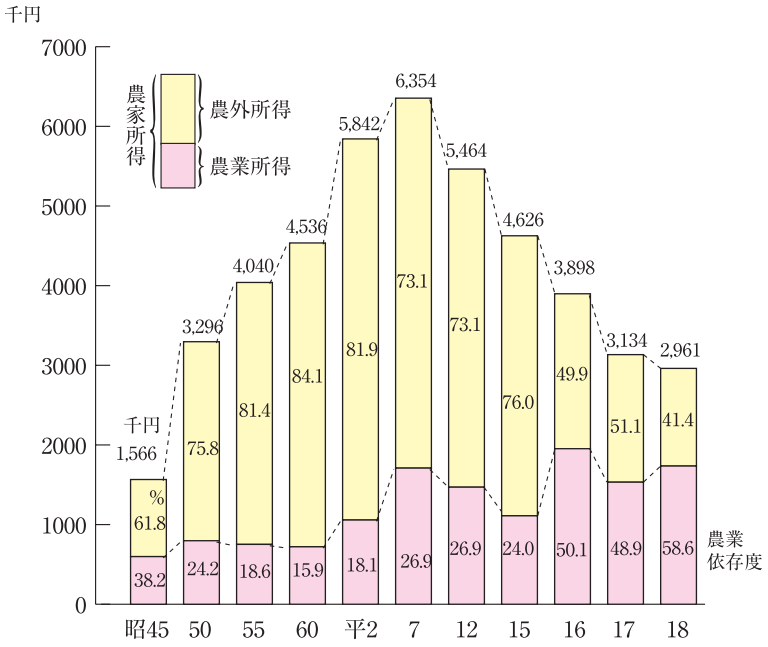
5）農業所得と農業産出額

農業産出額はピークの平成３年で1,737億円となり、昭和45年に比べ2.7倍となっている。しかし、平成９年以降ピーク時の70～85%程度の産出額で推移している。

また、生産農業所得も同様の傾向で平成18年は479億円となり、農家所得の推移も平成８年をピークに減少傾向にある。

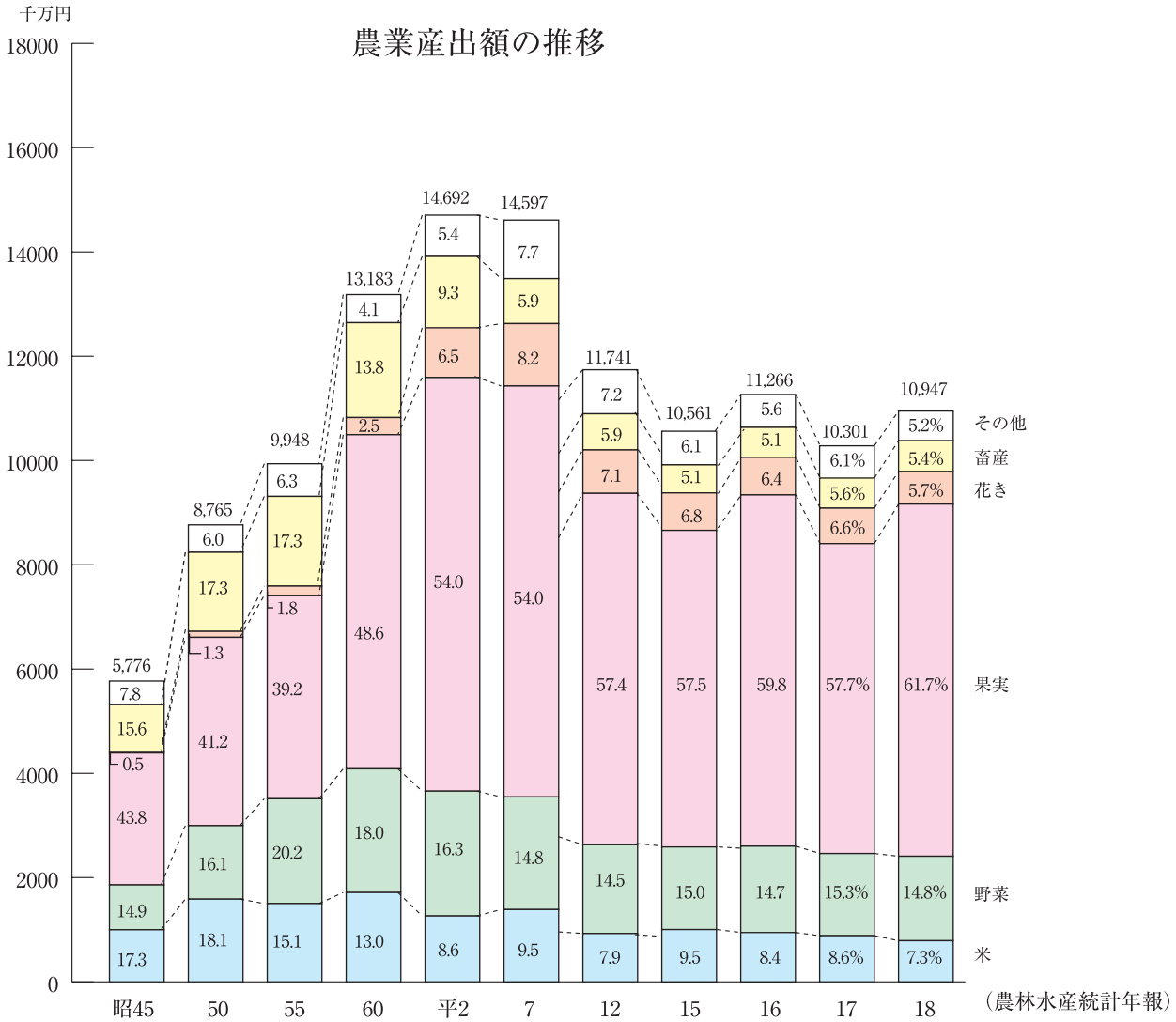
※本調査は、平成16年より調査対象及び調査内容が変更されていますので、ご利用の際はご注意下さい。

農家所得の推移



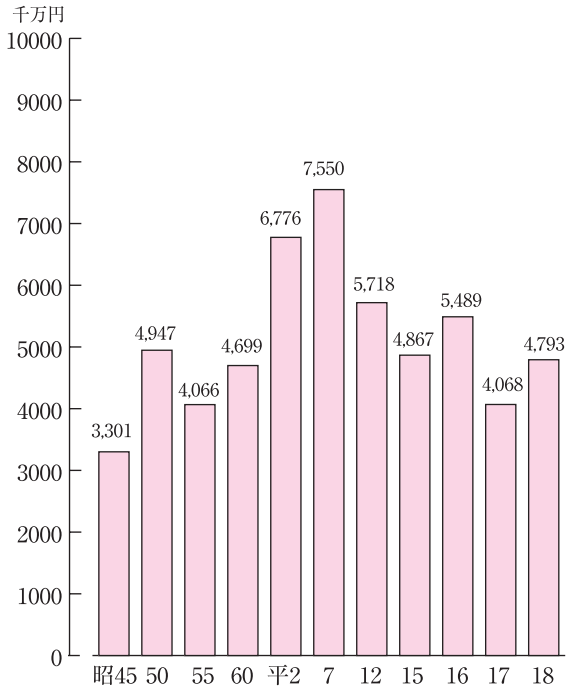
（農林水産統計年報基礎資料）

農業産出額の推移



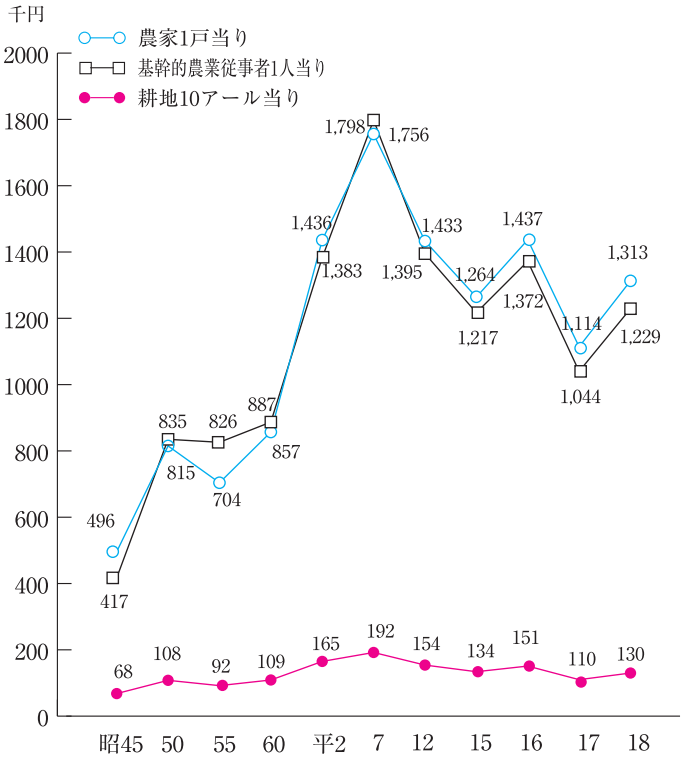
（農林水産統計年報）

生産農業所得（県計）の推移



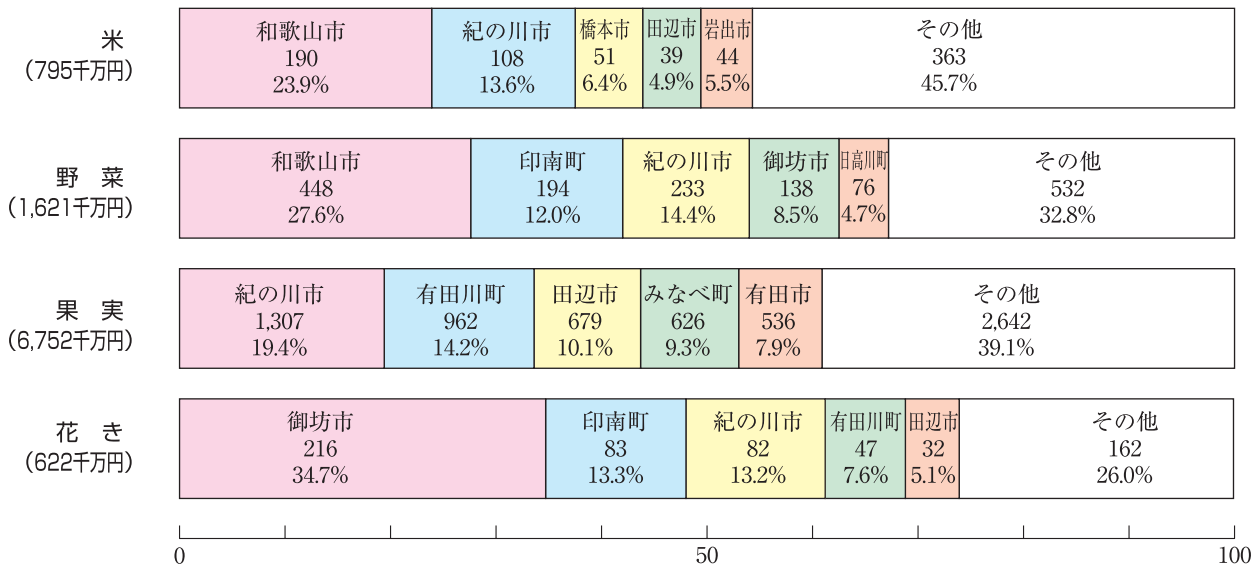
（農林水産統計年報基礎資料）

生産農業所得（単位当り）の推移



（農林水産統計年報基礎資料）

市町村別・部門別農業産出額（平18）

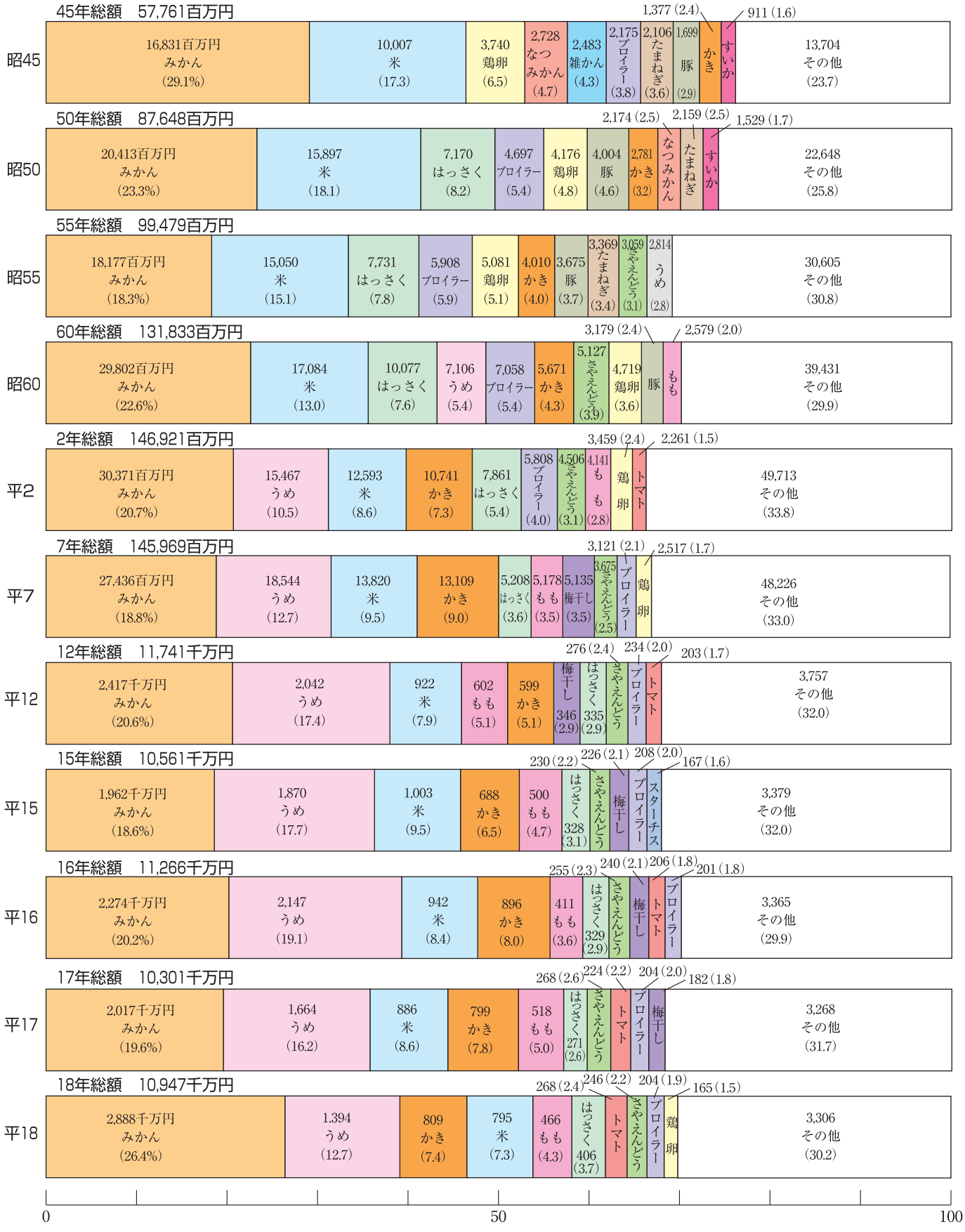


（農林水産統計年報）

農産物産出額上位10品目の推移

農産物生産額を品目別にみると、「うめ」と「みかん」で全体の約39%を占め、平成９年から「みかん」の生産額が落ち込んだ年については「うめ」が１位となっている。

平成17年は１位みかん、２位うめ、３位米、４位かき、５位ももの順。



6）農業農村整備事業の基盤整備状況

農業農村整備事業における基盤の整備状況は、畑の農道整備47.9%、かんがい施設整備29.5%、区画整理6.0%で田の区画整理は13.9%となっている。整備済みの農業水利施設については、本格的な保全対策が始まったところです。

1　畑（果樹園・普通畑）の整備状況

項目＼年度	H12	H13	H14	H15	H16	H17
畑面積(ha)	24,700	24,600	24,500	24,700	25,200	25,400
農道整備済面積(ha)	11,937	11,937	11,937	11,936	12,164	12,167
整備率(%)	48.3	48.5	48.7	48.3	48.3	47.9
畑地かんがい施設整備済み面積(ha)	7,269	7,269	7,269	7,269	7,499	7,495
整備率(%)	29.4	29.5	29.7	29.4	29.8	29.5
区画整理済み面積(ha)	1,504	1,507	1,511	1,513	1,516	1,516
整備率(%)	6.1	6.1	6.2	6.1	6.0	6.0

・農道整備済みとは、末端農道が整備された畑
・畑地かんがい施設整備済みとは、スプリンクラー等の施設が整備されている畑、及び、水源が確保され必要に応じて散水が可能な畑
・区画整理には、農地造成を含む

2　田の整備状況

項目＼年度	H12	H13	H14	H15	H16	H17
田面積(ha)	12,000	11,900	11,900	11,800	11,700	11,400
区画整理済み面積(ha)	1,461	1,477	1,495	1,540	1,554	1,588
整備率(%)	12.2	12.4	12.6	13.1	13.3	13.9

・区画整理には、30a未満の小区画を含む。

3　土地改良施設の整備状況

項目＼年度	H12	H13	H14	H15	H16	H17
農業水利施設延長(km)	－	－	－	－	－	682
保全対策済み延長	－	－	－	－	－	8
ため池の箇所数	5,566	5,566	5,566	5,566	5,566	5,566
整備済み箇所数	907	931	949	984	1,014	1,051
整備率(%)	16.3	16.7	17	17.7	18.2	18.9
農業集落排水整備対象人口(人)	－	102,701	65,195	67,102	64,019	63,388
整備済み人口	24,470	28,682	29,930	35,257	35,833	40,857
整備率(%)	－	27.9	45.9	52.5	56.0	64.5
広域農道整備済み延長(km)	61.9	61.9	61.9	64.6	64.6	64.6

・農業水利施設延長は、県営事業以上で造成された幹線施設延長
・広域農道の整備済み延長は供用開始済みの延長

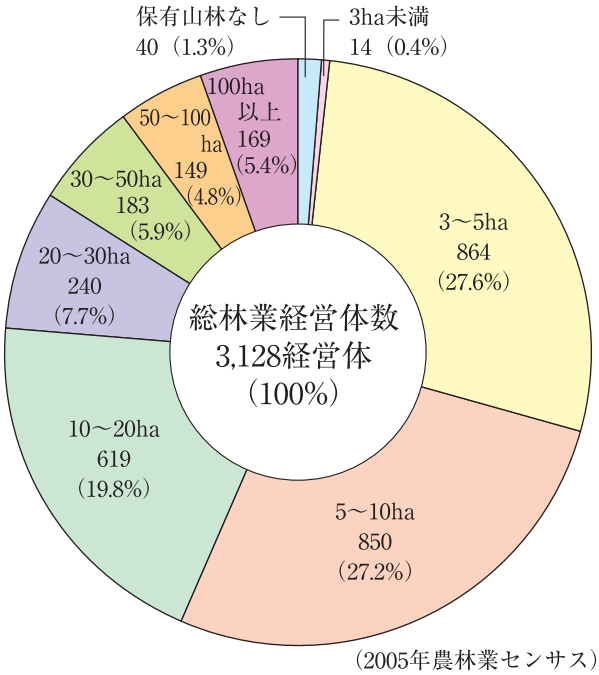
2 林業部門

1）林業を担う経営体（林業経営体）

本県の林業経営体数は、3,128経営体となっており、保有山林規模別では、10ha以下の経営体が総数の57%を占め、規模の小さな経営体が多い。

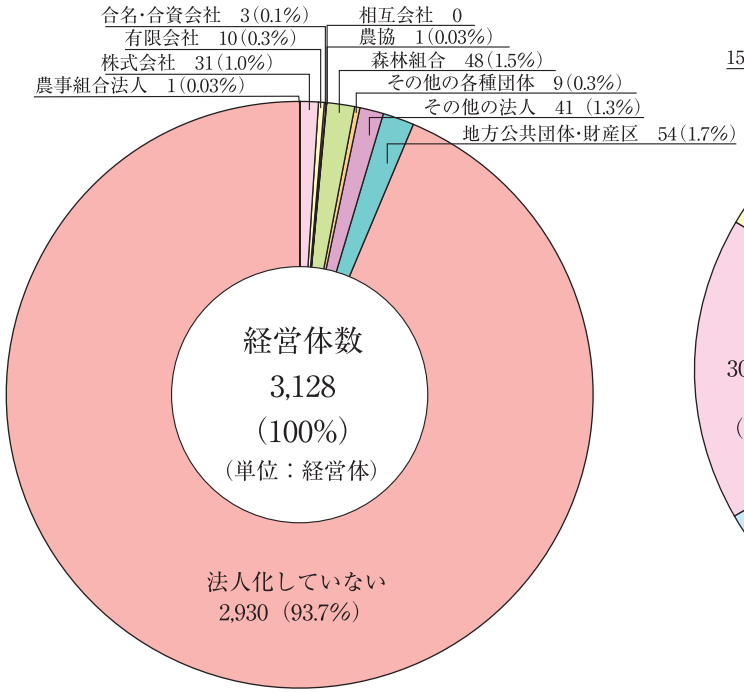
また、組織形態では、法人化していない経営体が94%を占め、林業従事日数150日以上の従事者を有する経営体（家族経営）は５％と少ない。

保有山林規模別林業経営体数



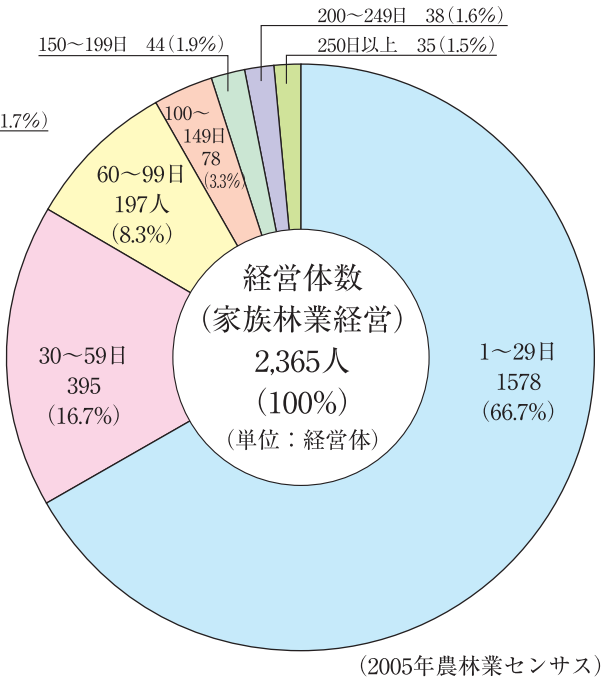
（2005年農林業センサス）

組織形態別経営体数（平17）



（2005年農林業センサス）

日数別事業体数（平17）



（2005年農林業センサス）

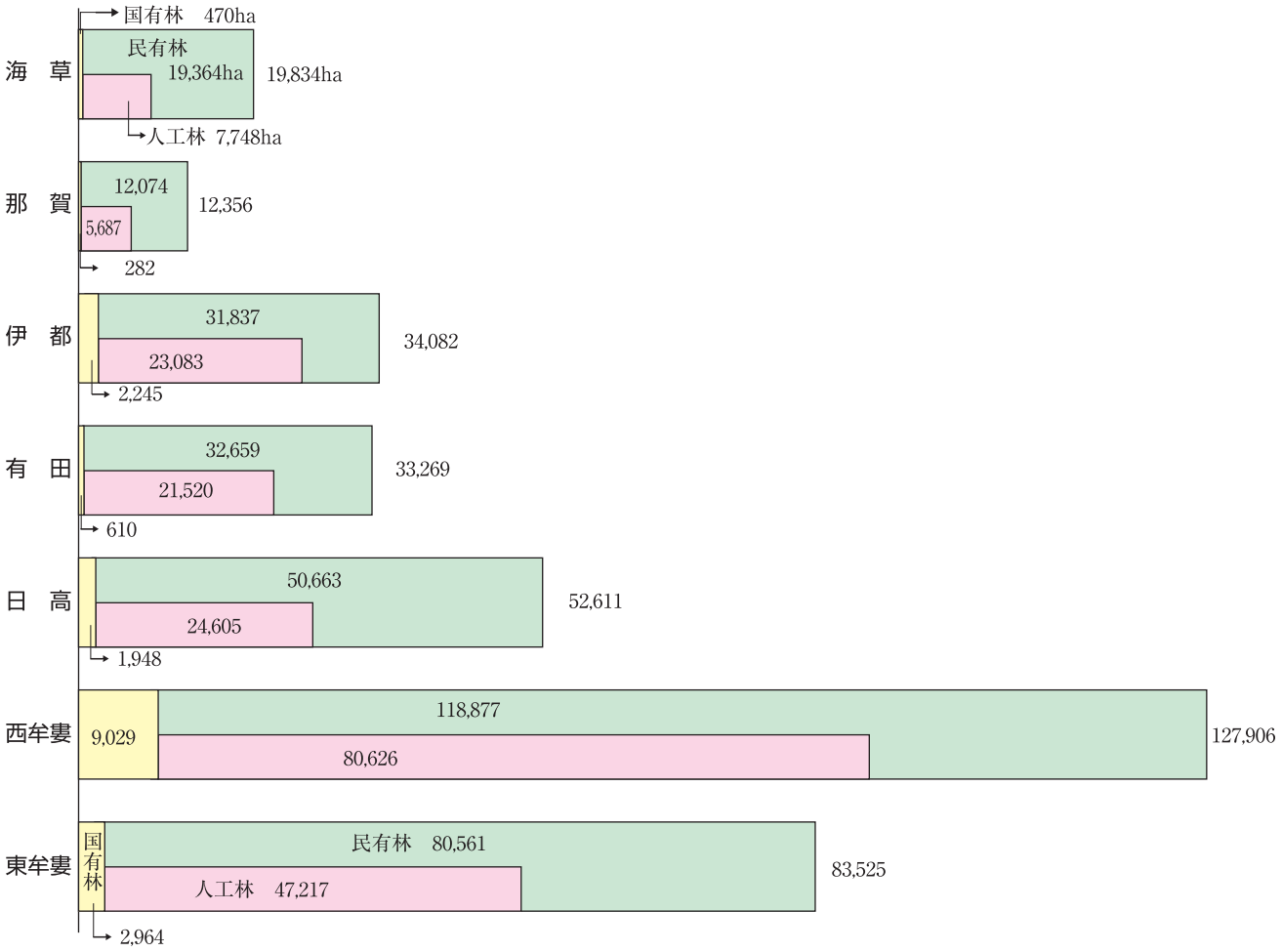
林業経営体数

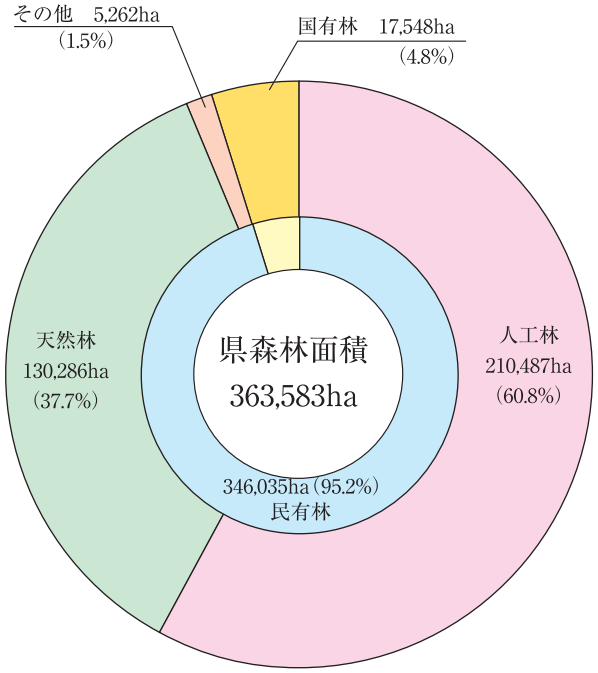
〔平17〕	全　国	和歌山県			1位	2位	3位
	実　数	実数	順位	シェア(%)	県名	県名	県名
林業経営体数	200,224	3,128	29	1.6	北海道	岩　手	岐　阜

2）森林資源・林業生産基盤

郡別・森林面積（平19.4.1現在）

県の森林面積363,583haのうち、国有林は4.8%、民有林は95.2%で、民有林のうち、人工林は60.9%である。

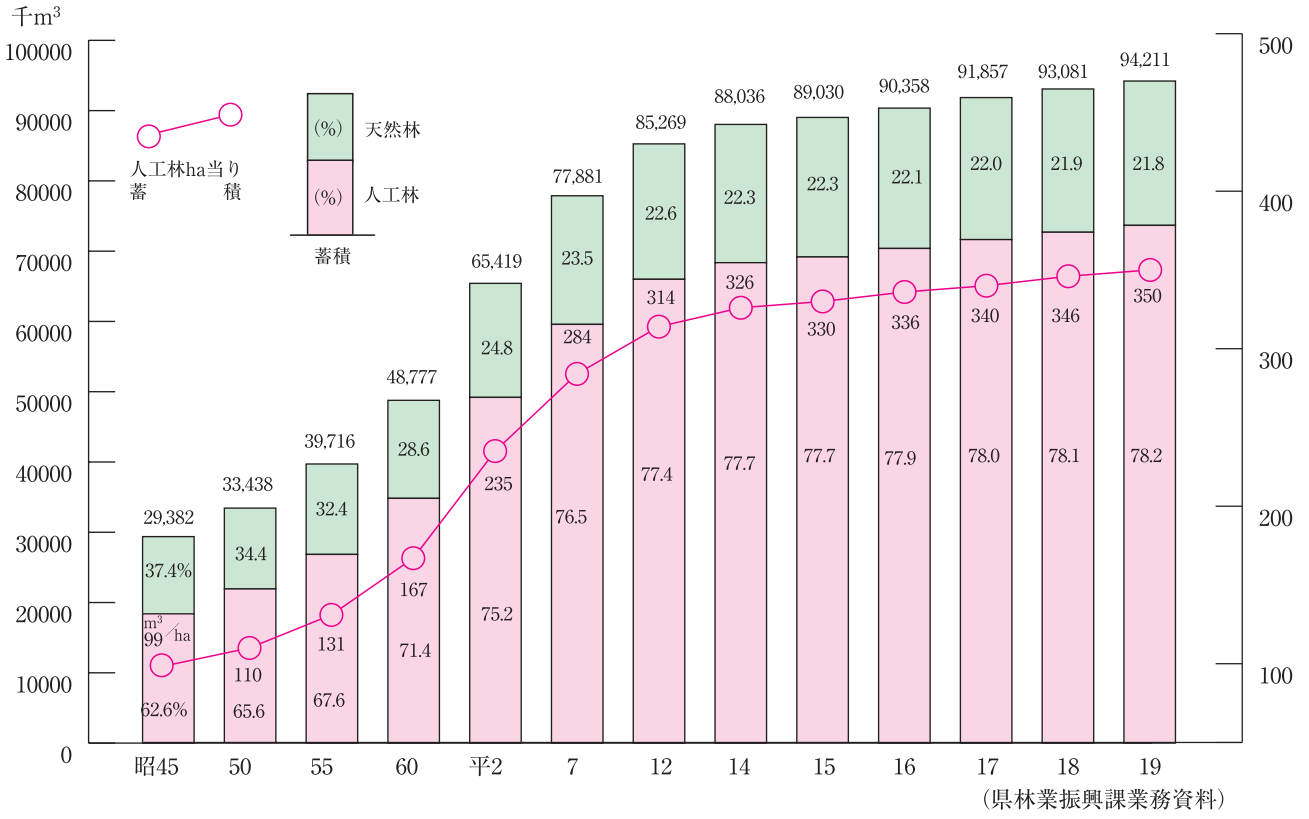




（県林業振興課業務資料）

森林資源（民有林蓄積）の推移　（地域森林計画対象森林：345,503ha）

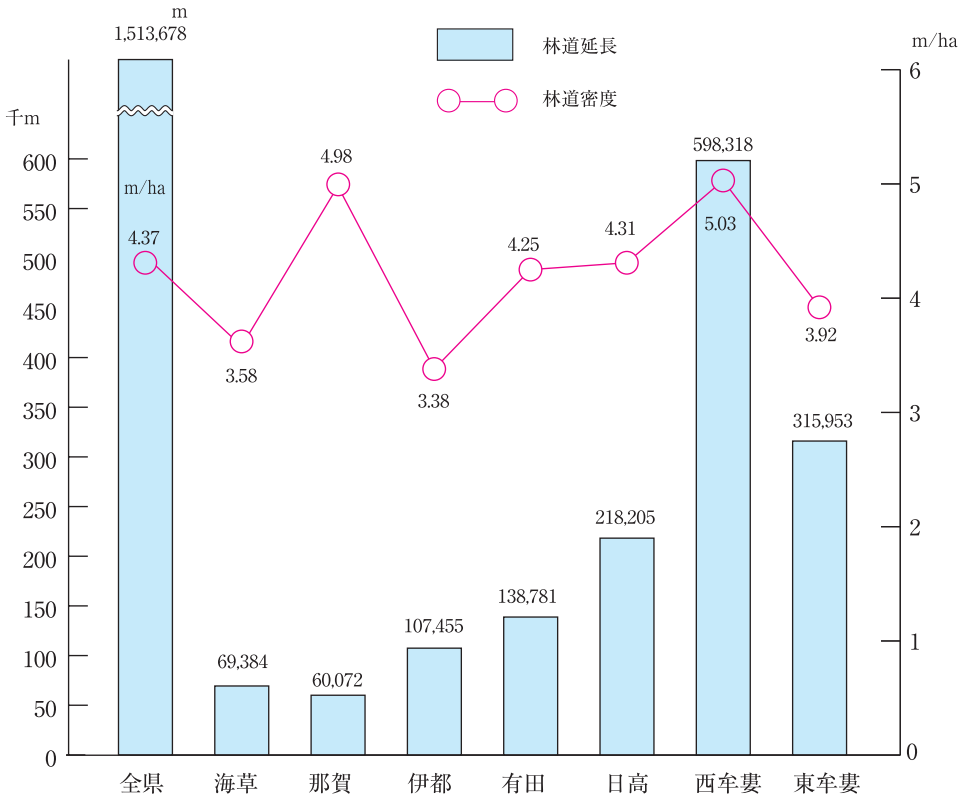
戦後植林された森林資源が成熟しつつある。



（県林業振興課業務資料）

郡別民有林林道延長及び林道密度（平18.4.1現在）

生産コストの縮減をはかるため、林道密度を高める必要がある。

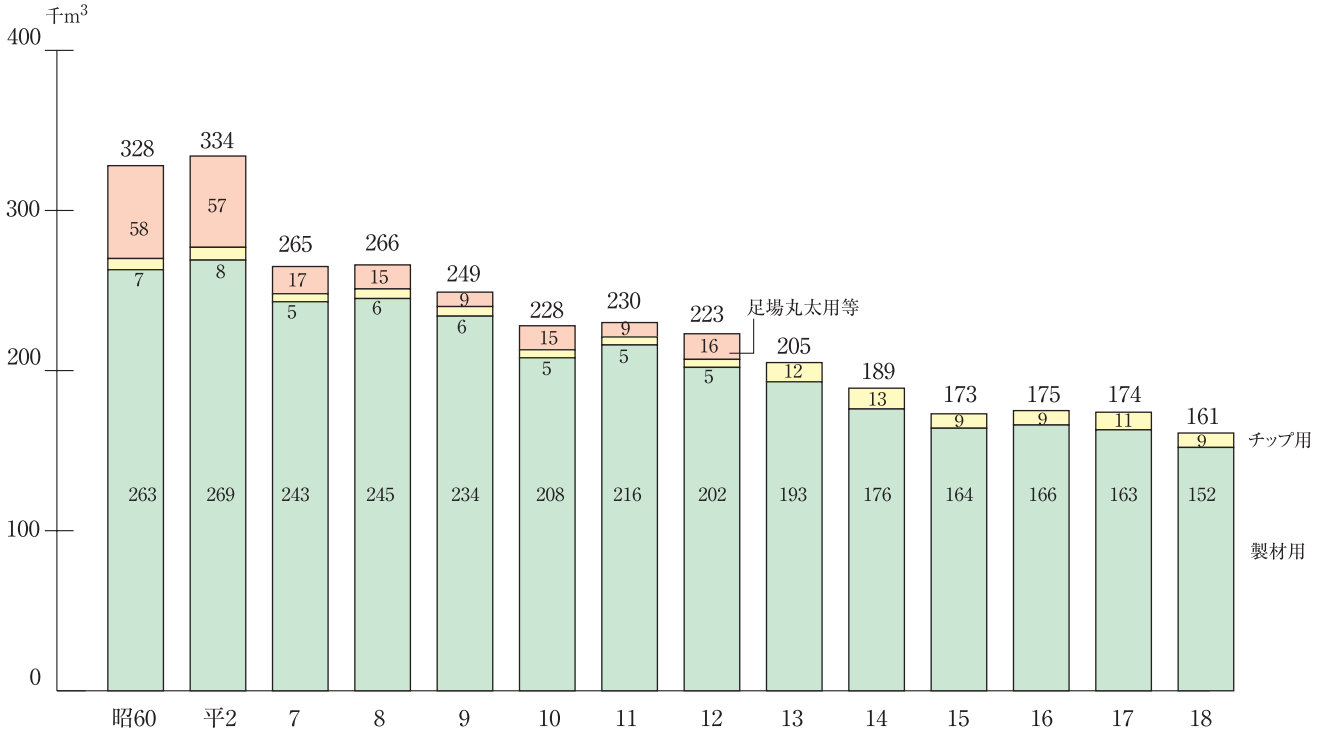


（県林業振興課業務資料　平成18年4月1日現在）

3）林業生産

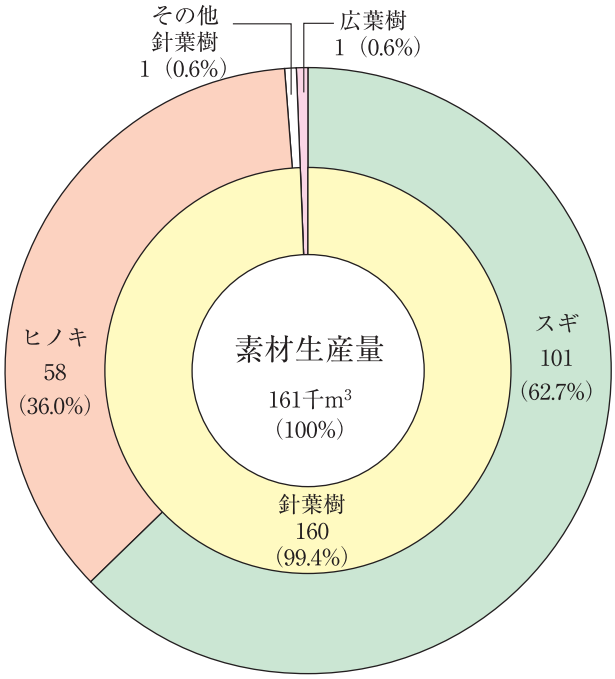
近年の木材生産活動は木材価格の低迷等から停滞している。
一方、最近では輸入製品価格の高騰などから、国産材の需要が高まりつつある。

用途別素材生産量の推移



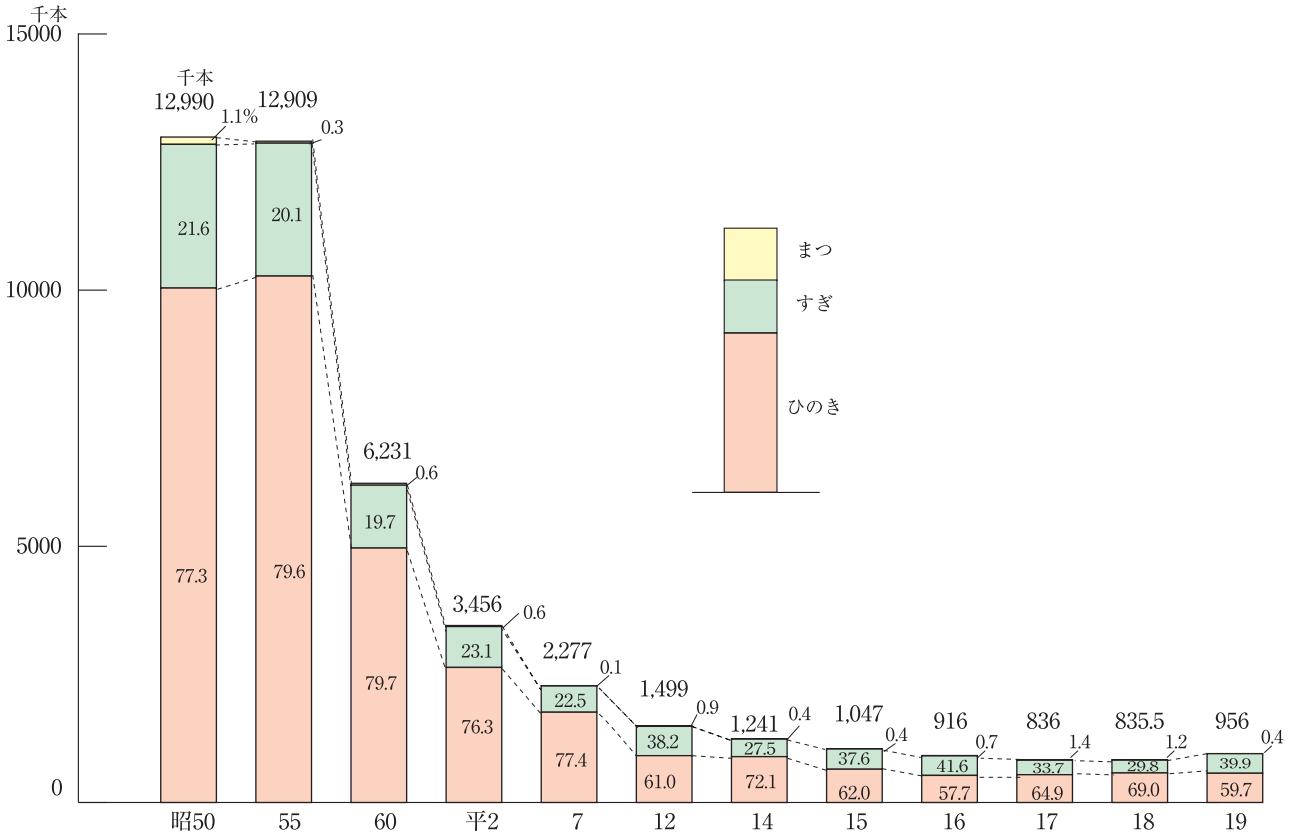
（木材需給報告書）

樹種別素材生産量（平18）



（木材需給報告書）

山林用種苗生産本数の推移



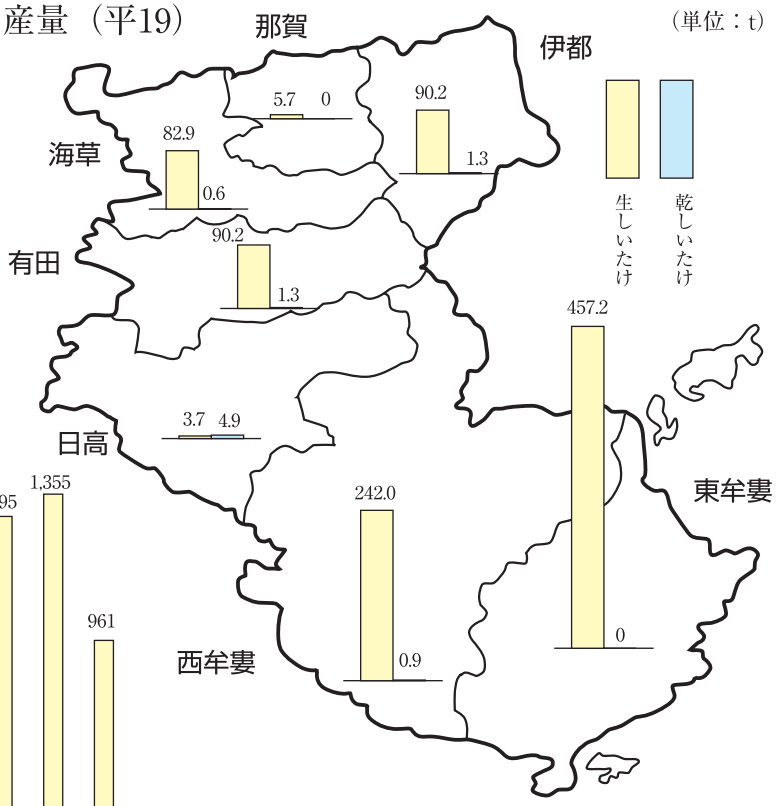
（県森林整備課業務資料）

素　材　生　産　量

〔平18〕		全　国	和　歌　山　県			1位	2位	3位
		実　数	実　数	順　位	シェア(%)	県名	県名	県名
素材生産量	合　計(千m³)	16,609	161	25	1.0	北海道	宮　崎	岩　手
	針　葉　樹	14,017	160	24	1.1	北海道	宮　崎	熊　本
	す　　ぎ	8,059	101	21	1.3	宮　崎	秋　田	大　分
	ひ　の　き	1,991	58	12	2.9	岡　山	愛　媛	三　重
	広　葉　樹	2,592	1	44	0.0	北海道	岩　手	福　島

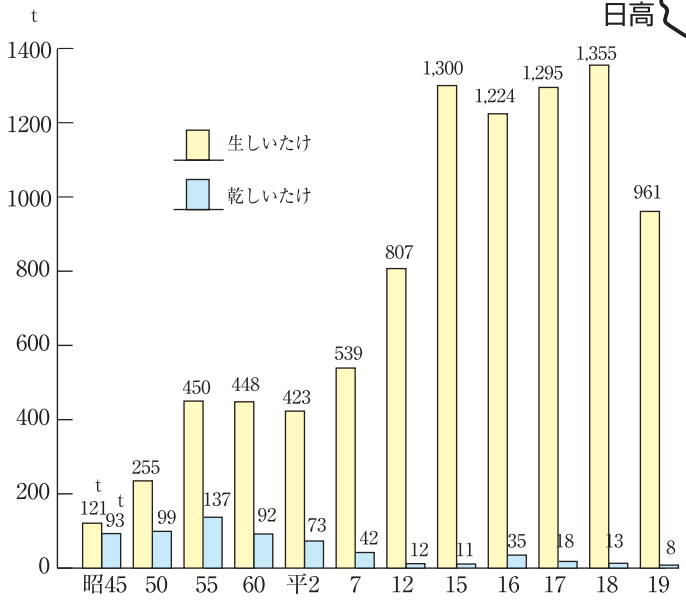
郡別・しいたけ生産量（平19）

（単位：t）



（県山村整備課業務資料）

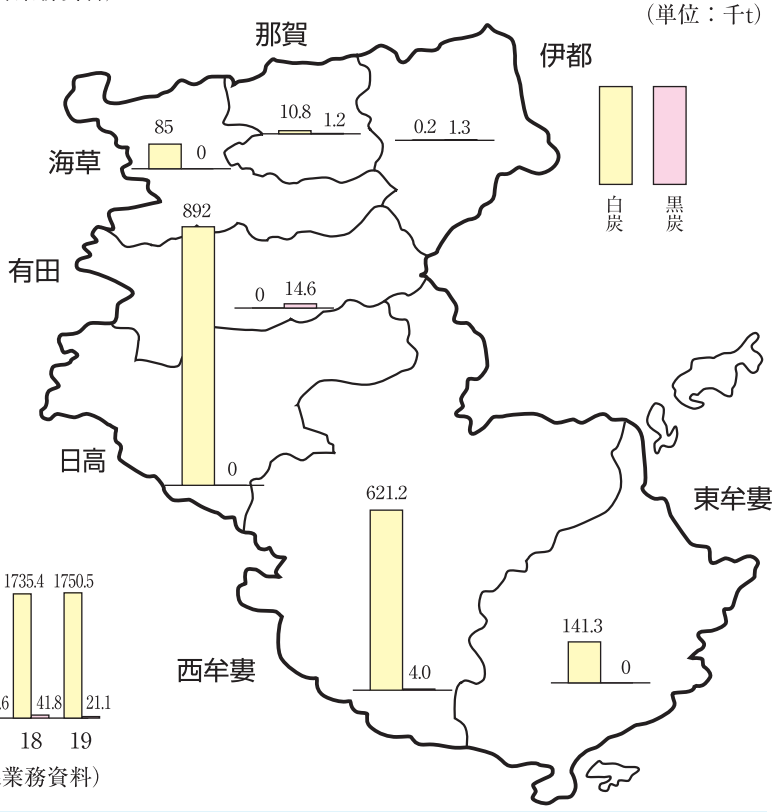
しいたけ生産量の推移



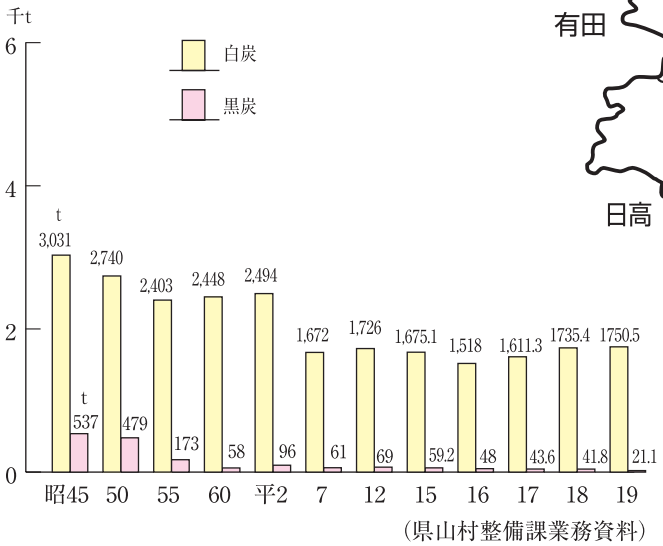
（県山村整備課業務資料）

郡別・木炭生産量（平19）

（単位：千t）



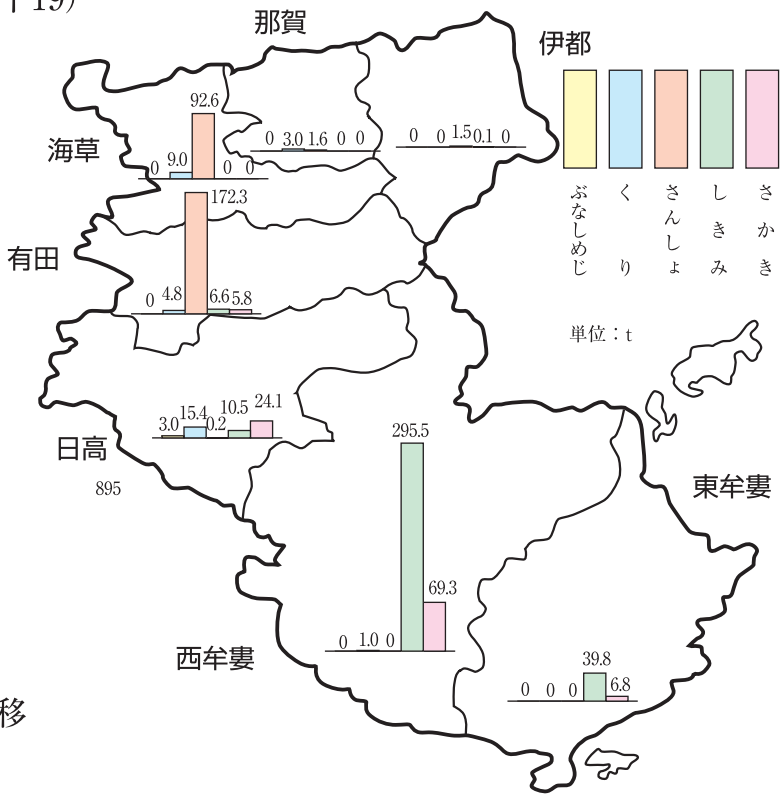
木炭生産量の推移



（県山村整備課業務資料）

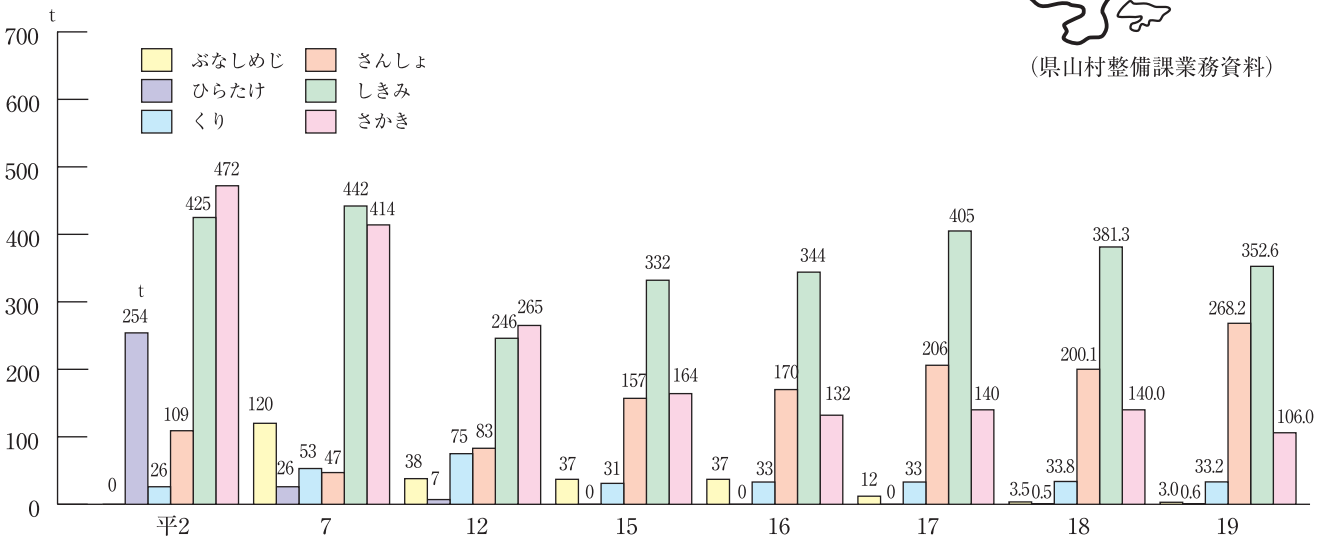
山村での主収入であった林業が低迷する中、副収入源であった特用林産物の収入に占める割合が増加してきた。

郡別・その他特用林産物生産量（平19）



（県山村整備課業務資料）

その他の特用林産物生産量の推移



（県山村整備課業務資料）

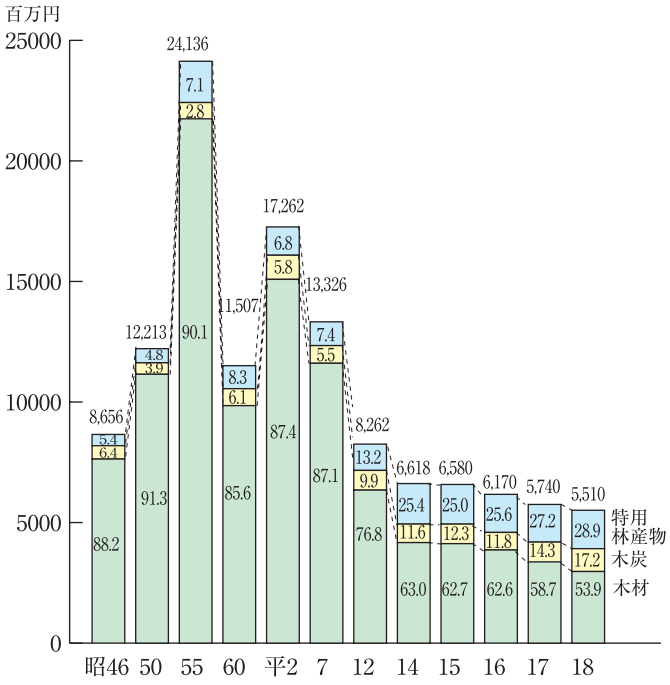
特用林産物生産量

〔平18〕 (t)	全国	和歌山県			1位	2位	3位
	実数	実数	順位	シェア(%)	県名	県名	県名
乾しいたけ	3,860.9	13.3	26	0.3	大分	宮崎	岩手
生しいたけ	66,348.5	1,355.1	15	2.0	徳島	群馬	栃木
白炭	3,558	1,735	1	48.8	和歌山	宮崎	高知
黒炭	13,611	42	33	0.3	岩手	北海道	福島

4）林業所得と林業産出額

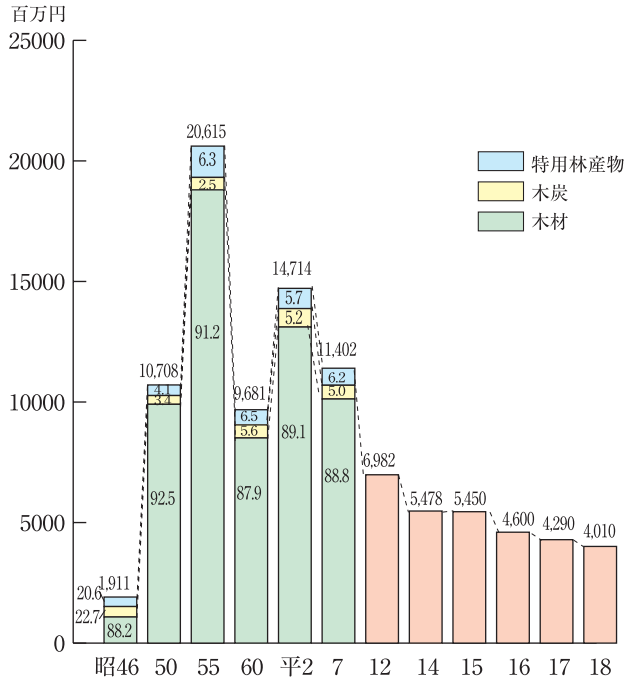
素材価格がピークであった昭和55年を契機に年々減少してきている。

林業産出額の推移



（生産林業所得統計報告書）

生産林業所得額の推移



（生産林業所得統計報告書）

※H10から内訳の計上がされていない

※枠内の数字はパーセントを表す

生 産 額

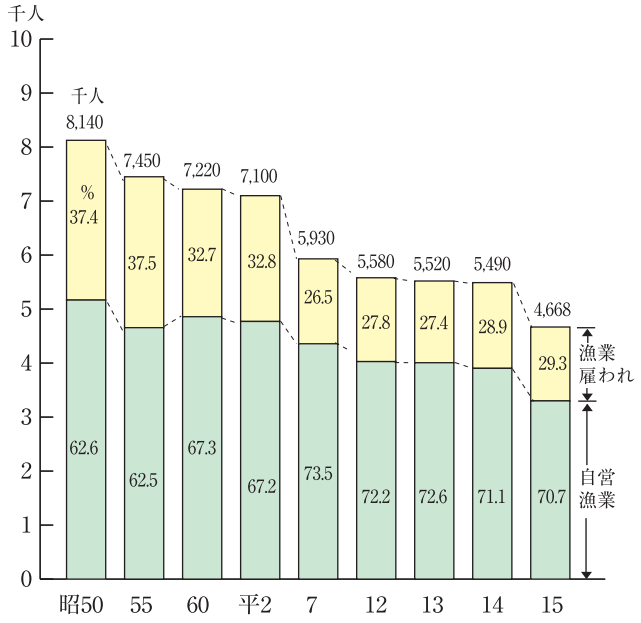
〔平18〕（千万円）		全国 実数	和歌山県 実数	順位	シェア(%)	1位 県名	2位 県名	3位 県名
林業産出額	総計	43,216	551	26	1.3	長野	北海道	新潟
	木材生産	21,708	297	21	1.4	北海道	宮崎	岩手
生産林業所得	総計	24,878	401	26	1.6	長野	北海道	新潟

3 水 産 部 門

1）水産業を担う人々

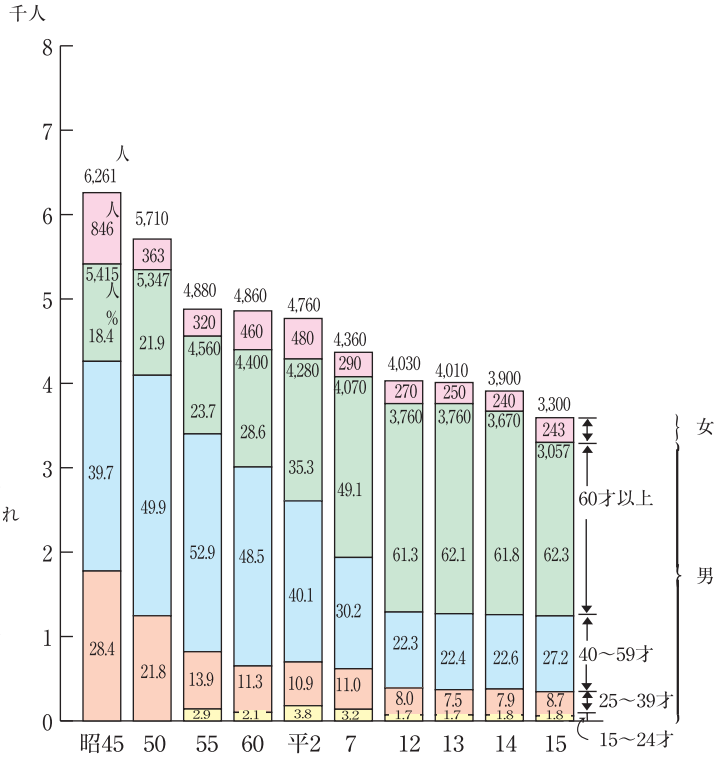
漁業就業数は減少傾向で推移しており平成15年の漁業就業者数は4,668人である。
また、自営漁業就業者のうち年齢別では60才以上の男子就業者が62.3%を占め高齢化が進んでいる。

漁業就業者数の推移



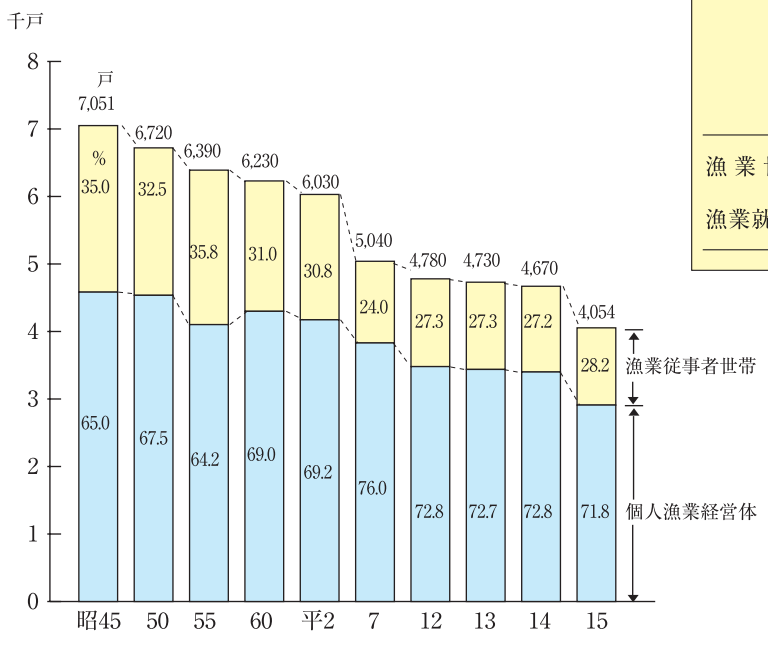
（農林水産統計年報）

自営漁業就業者数の推移



（農林水産統計年報）

漁業世帯数の推移



（農林水産統計年報）

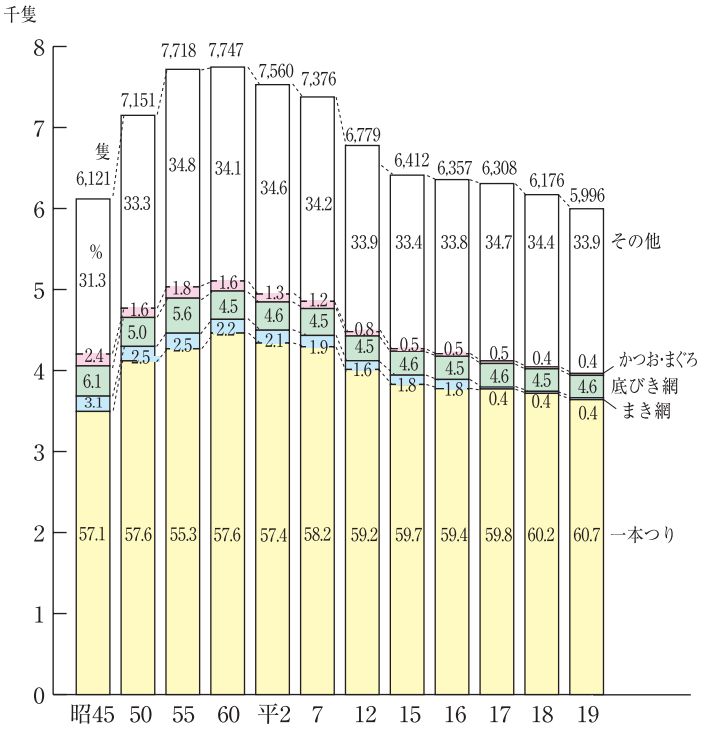
漁業世帯数等

〔平15〕	全国	和歌山県			1位	2位	3位
	実数	実数	順位	シェア(%)	県名	県名	県名
漁業世帯数(戸)	175,819	4,054	16	2.3	北海道	長崎	宮城
漁業就業者数(人)	238,371	4,668	20	2.0	北海道	長崎	三重

2）水産業の基盤

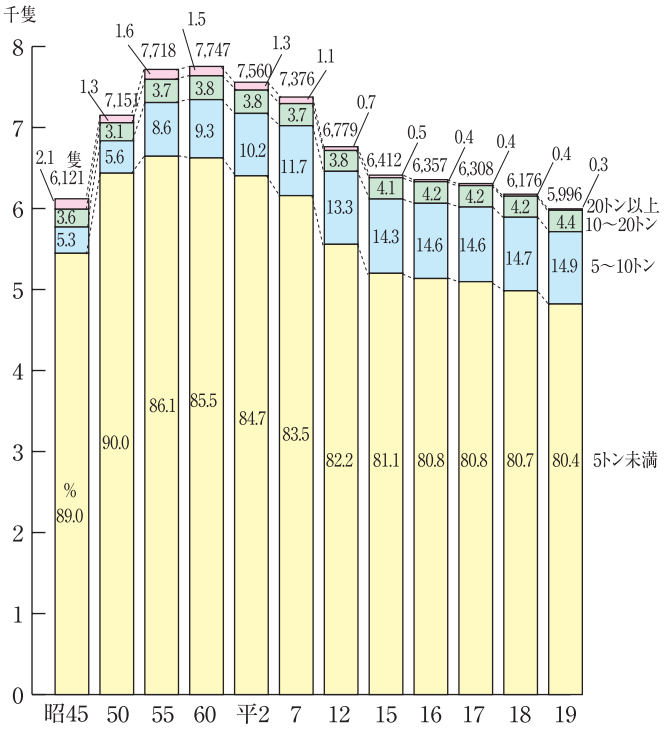
海水動力漁船数は昭和60年をピークに減少傾向で平成19年12月末日現在では5,996隻となっている。漁業種類別では「一本つり」が60.7%、「底びき網」4.6%である。トン数別では5ｔ未満の小型漁船が80.4%と大半を占めている。

漁業種類別海水動力漁船数の推移



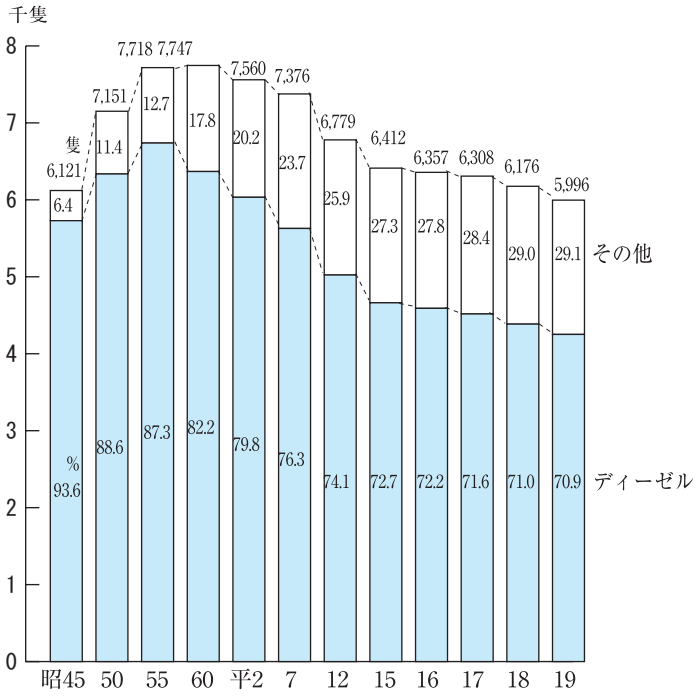
（県漁船統計表）

トン数階層別海水動力漁船数の推移



（県漁船統計表）

機関種類別海水動力漁船数の推移



（県漁船統計表）

漁港の現況

本県には、95港（全国2,921港）の漁港と、122地区（全国4,698地区）の漁業集落がある。また、漁港の種類は、漁船の利用範囲によって下表のように分類されている。

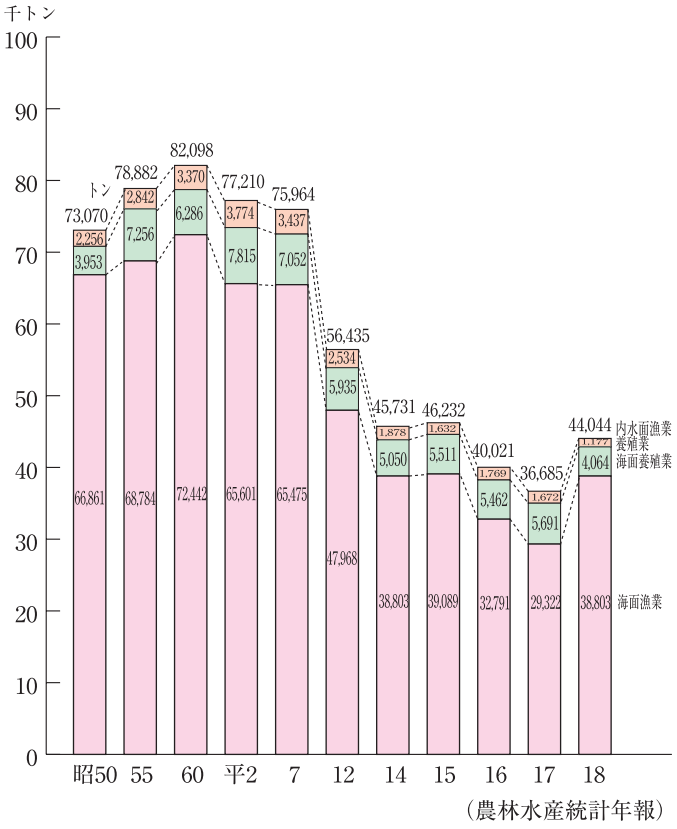
種別	漁港合計	分類の説明
第１種漁港	78	利用範囲が地元の漁業を主とするもの
第２種漁港	11	利用範囲が１種より広く３種に属さないもの
第３種漁港	4	利用範囲が全国的なもの
第４種漁港	2	漁船の避難上特に必要なもの
港合計	95	

3）水産業の生産

漁業・養殖業の生産量は昭和60年の82,098ｔをピークに減少傾向にあり、平成18年は44,044tとなっている。

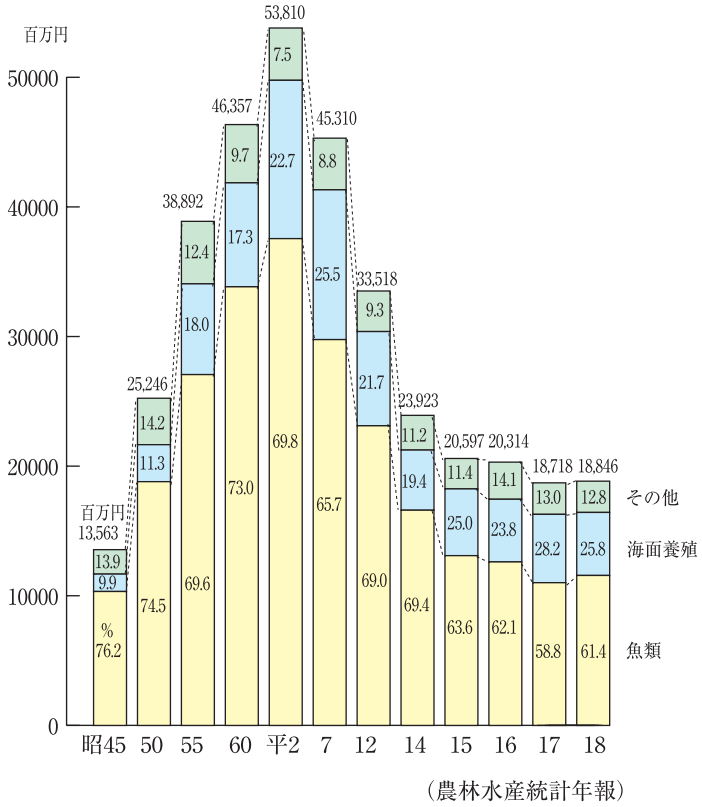
海面漁業・養殖業生産額は平成２年をピークに減少傾向で平成18年は188億46百万円でピーク時の35.0%となっている。

漁業・養殖業部門別生産量の推移



（農林水産統計年報）

海面漁業・養殖業生産額の推移



（農林水産統計年報）

漁　獲　量

〔平18〕 (t)	全　国	和　歌　山　県			1位	2位	3位
	実　数	実　数	順　位	シェア(%)	県名	県名	県名
海　面　漁　業	4,469,531	38,803	26	0.87	北海道	宮　城	茨　城
魚　類	3,504,002	36,074	24	1.03	北海道	茨　城	宮　城
えび･かに･いか･たこ	397,454	1,475	34	0.37	北海道	青　森	石　川
貝　類	354,776	76	38	0.021	北海道	愛　知	福　岡
海　藻　類	113,664	782	12	0.69	北海道	愛　知	青　森
海　面　養　殖　業	1,182,584	4,064	23	0.34	北海道	宮　城	広　島

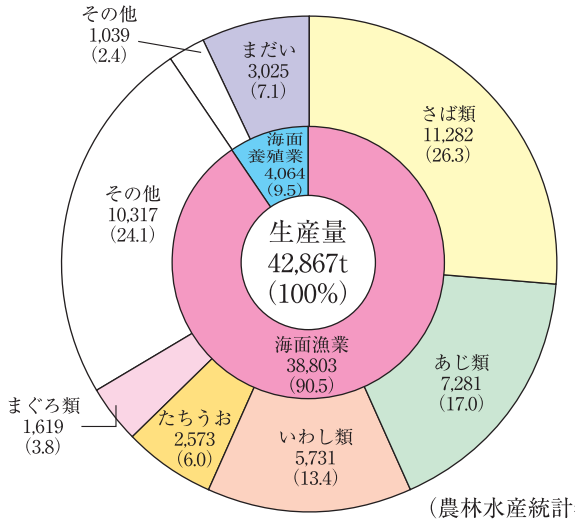
生　産　額

〔平18〕 (百万円)	全　国	和　歌　山　県			1位	2位	3位
	実　数	実　数	順　位	シェア(%)	県名	県名	県名
海　面　漁　業	1,078,339	13,984	25	1.3	北海道	長　崎	宮　城
海　面　養　殖　業	449,607	4,862	23	1.1	愛　媛	鹿児島	北海道

4）主な漁種別漁獲量・生産額の推移

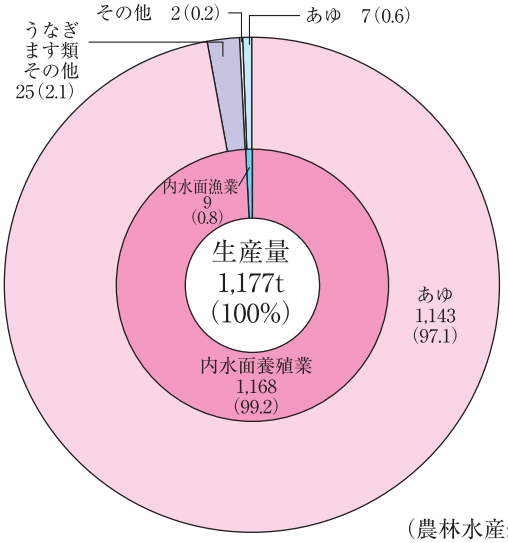
平成18年の魚種別の生産量は、海面漁業では、さば類26.3%、あじ類17.0%、たちうお6.0%、まぐろ類3.8%となっている。海面養殖業では昭和62年頃から始まったぶり類養殖からまだい養殖への魚種転換により、まだいが74.4%を占め、内水面漁業・内水面養殖ではあゆが97.7%となっている。

海面漁業、養殖業魚種別生産量（平18）



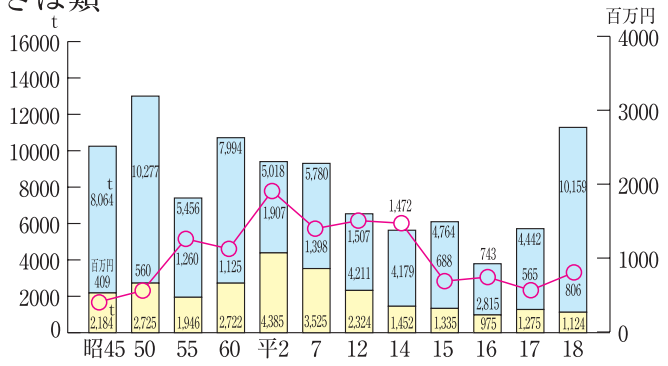
（農林水産統計年報）

内水面漁業、養殖業魚種別生産量（平18）

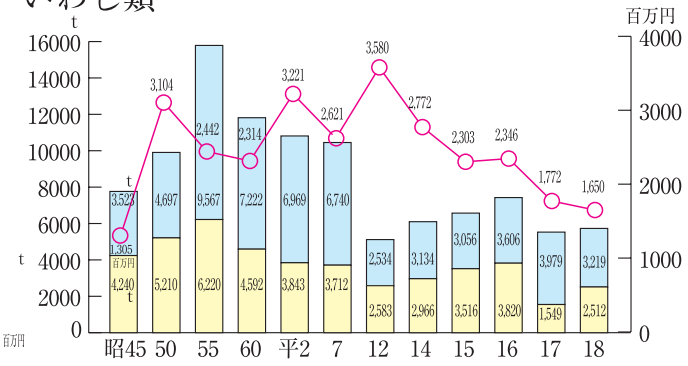


（農林水産統計年報）

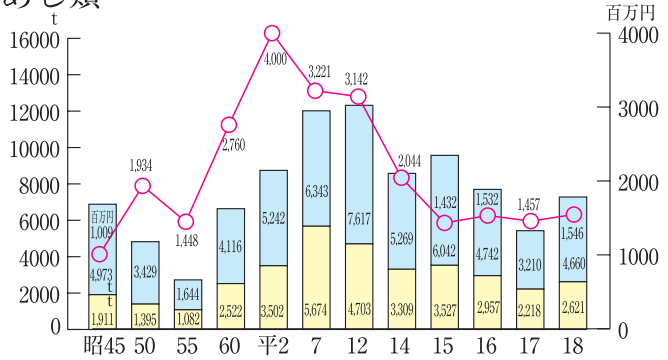
さば類



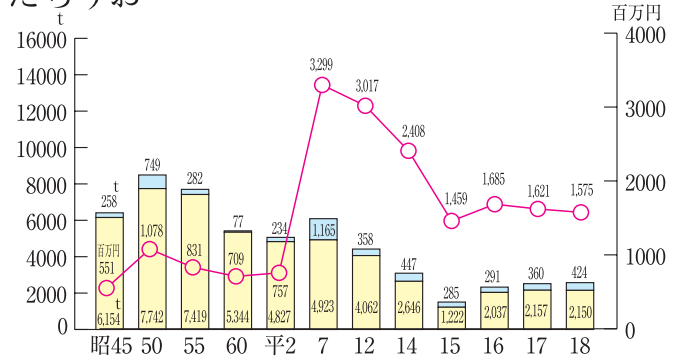
いわし類



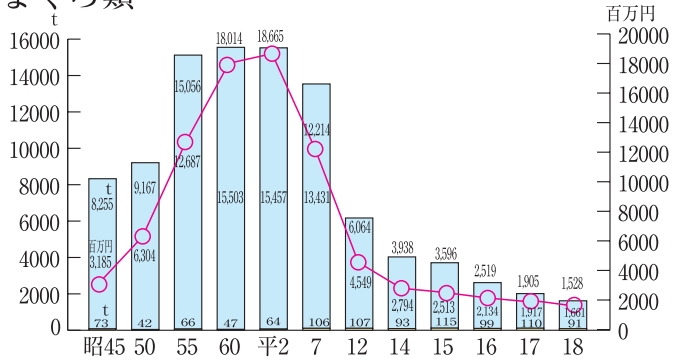
あじ類

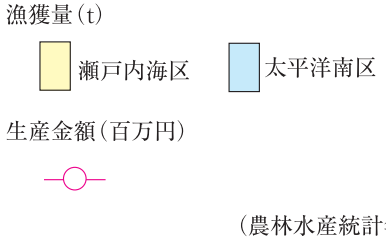


たちうお



まぐろ類





（農林水産統計年報）

農林水産関係施策を行っている主な課室

農　林　水　産　部

課室名		業務概要	電話番号	メールアドレス
農林水産政策局	農林水産総務課	農林水産業振興施策の総合的企画・調整・検査	073−441−2863	e0701002@pref.wakayama.lg.jp
	工事検査室	農林水産関連の工事検査	073−441−2867	
	組合検査室	農業協同組合、森林組合、漁業協同組合の検査	073−441−2871	
	食品流通課	農産物をはじめとする県産品の販路拡大・流通対策、輸出対策	073−441−2811	e0717001@pref.wakayama.lg.jp
	農業農村整備課	土地改良法関係、施設管理、農業農村整備の計画・調整、農業基盤・農村環境・農地の保全施設等の整備	073−441−2943	e0705002@pref.wakayama.lg.jp
農業生産局	果樹園芸課	農産物の生産振興、農業技術・経営の指導	073−441−2900	e0703001@pref.wakayama.lg.jp
	農業環境保全室	環境保全型農業、肥料・農薬の適正使用、鳥獣害対策、適正狩猟の推進	073−441−2905	e0714001@pref.wakayama.lg.jp
	畜産課	畜産業振興のための企画・指導・支援	073−441−2920	e0704001@pref.wakayama.lg.jp
	経営支援課	農協等の指導、金融支援、農業の構造改善、都市農村交流の推進、農業の担い手確保・育成、農地の利活用	073−441−2880	e0709001@pref.wakayama.lg.jp
森林・林業局	林業振興課	林業振興施策の企画・指導、紀州材の需要拡大、緑の雇用事業の企画調整、紀の国森づくり基金の活用	073−441−2960	e0706001@pref.wakayama.lg.jp
	森林整備課	森林の造成・保全、山地災害の防止、森林・緑の活用促進	073−441−2972	e0707001@pref.wakayama.lg.jp
	山村整備課	山村資源の活用、交流の促進、生活環境基盤の整備、林道整備	073−441−2990	e0708001@pref.wakayama.lg.jp
水産局	水産振興課	水産業振興のための指導・研究・援助等	073−441−3000	e0710001@pref.wakayama.lg.jp
	資源管理課	水産資源の管理・保護、漁業取締・調整・許可等	073−441−3010	e0715001@pref.wakayama.lg.jp

他部局関係課室

企　画　部

課室名		業務概要	電話番号	メールアドレス
地域振興局	地域交流課	わかやま田舎暮らしの企画・調整 子ども農山漁村交流の企画・調整	073−441−2930	e0222001@pref.wakayama.lg.jp

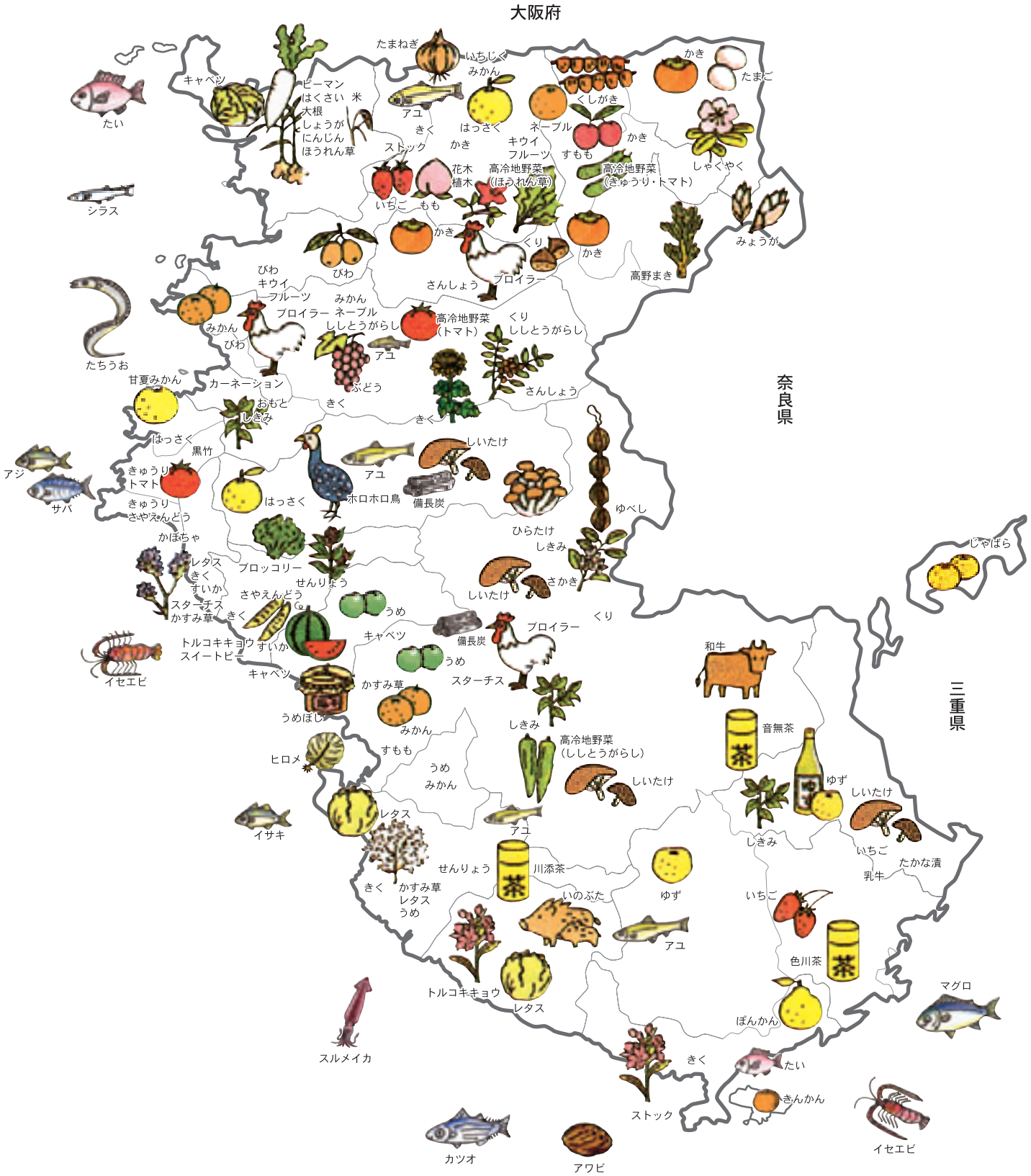
環　境　生　活　部

課室名		業務概要	電話番号	メールアドレス
県民局	食品・生活衛生課	食品安全確保・食品保健の推進、水道水の安全・安定供給、生活衛生の維持向上、動物と共生する社会づくり	073−441−2634	e0316001@pref.wakayama.lg.jp

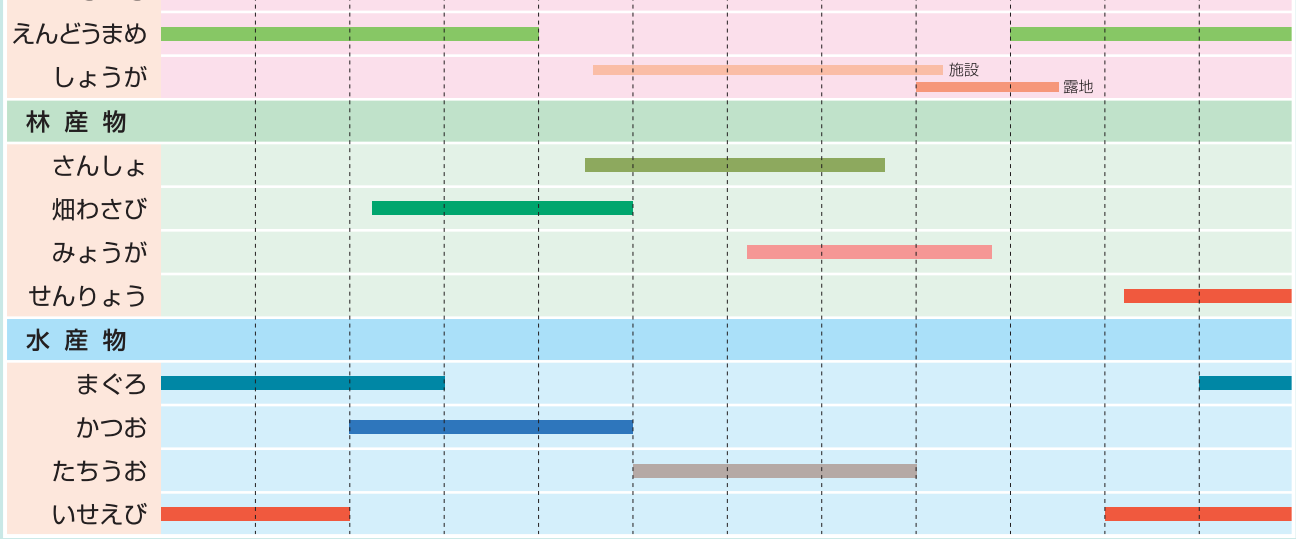
県　土　整　備　部

課室名		業務概要	電話番号	メールアドレス
道路局	道路建設課	道路（農林道を含む）の整備	073−441−3090	e0802001@pref.wakayama.lg.jp
河川・下水道局	下水道課	生活排水施設の整備促進、農業集落排水の整備	073−441−3205	e0814001@pref.wakayama.lg.jp
港湾空港局	港湾整備課	漁港・漁港海岸の整備、漁村環境の整備	073−441−3020	e0825002@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県の農林水産物


大阪府
奈良県
三重県
たまねぎ
いちじく
みかん
かき
たまご
キャベツ
ピーマン
はくさい
米
大根
しょうが
にんじん
ほうれん草
アユ
きく
ストック
はっさく
ネーブル
くしがき
かき
キウイフルーツ
すもも
しゃくやく
たい
シラス
花木
植木
高冷地野菜
(ほうれん草)
高冷地野菜
(きゅうり・トマト)
いちご
もも
かき
くり
プロイラー
みょうが
高野まき
さんしょう
びわ
キウイフルーツ
みかん
ネーブル
ししとうがらし
高冷地野菜
(トマト)
くり
ししとうがらし
たちうお
甘夏みかん
カーネーション
おもと
しきみ
ぶどう
アユ
さんしょう
きく
はっさく
黒竹
しいたけ
アジ
きゅうり
トマト
サバ
ホロホロ鳥
備長炭
ゆべし
ひらたけ
しきみ
じゃばら
さかき
しいたけ
かぼちゃ
レタス
きく
すいか
さやえんどう
スターチス
かすみ草
ブロッコリー
せんりょう
うめ
キャベツ
備長炭
プロイラー
くり
トルコキキョウ
スイートピ
すいか
イセエビ
キャベツ
和牛
うめぼし
かすみ草
スターチス
みかん
しきみ
音無茶
高冷地野菜
(ししとうがらし)
ヒロメ
すもも
うめ
みかん
しいたけ
ゆず
しいたけ
レタス
アユ
しきみ
いちご
イサキ
せんりょう
川添茶
たかな漬
乳牛
きく
かすみ草
レタス
うめ
ゆず
いのぶた
いちご
アユ
色川茶
トルコキキョウ
レタス
マグロ
ぽんかん
スルメイカ
きく
たい
きんかん
ストック
イセエビ
カツオ
アワビ

和歌山県 農林水産物のカレンダー



県の花 うめ



梅はバラ科に属し、古くから紀南地方を中心に栽培されています。2月から3月にかけて美しい花を咲かせ、香りもすばらしく、春を告げる花として親しまれています。

県の鳥 めじろ



メジロ科、日本特有の小鳥で本県に多く、古くから県民に親しまれています。
ウグイス、ヤマガラなどとともに、保護鳥に指定されています。

県の木 うばめがし



ブナ科の常緑樹で、紀南地方に特に多く見られます。
高温多湿を好みますが、耐乾性も強く生命力の強い木として知られています。

県の魚 まぐろ



サバ科に属し、なかでもクロマグロが代表的。
樺太、北海道以南、フィリピンにまで分布し、刺身として極めて美味でトロは有名。
クロマグロは全長3mに達します。

再生紙を使用しています
PRINTED WITH SOY INK